



念願のダブルライセンス取得！

今井 裕 さん

2024年6月 EA試験合格

- Part1 (2023年10月) / 1回目
- Part2 (2024年 6月) / 1回目
- Part3 (2024年 6月) / 1回目

- 2022年 USCPA 全科目合格
- 2023年 USCPA License登録
- 製薬会社へ勤務

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

USCPAの全科目合格をきっかけに学習を開始しました。
TACのUSCPA講義の中でEA試験の存在を知りました。REGのTAX知識をベースにプラスアルファの範囲の学習でEA全科目の合格できることに興味を持ちました。また、USCPAを学習する中で税制に興味を持ち、全科目合格できたらEA試験に取り組もうと考えました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

- 会計知識：日商簿記2級・USCPA／米国公認会計士(ワシントン州)
- 英語知識：TOEIC® L&R TEST 930点

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

TACのUSCPA講座を受講して先生方の多大なサポートをいただき合格することができたため、EA試験もTACで学習することにしました。

Q4. TACの講座でよかったところ

TACの厳選問題要点ノート、補助レジュメは非常によくまとまっています。
要点ノートを繰り返すことで基本的な理解を得ることができました。
TAC補助レジュメには、GLEIMテキストの全問題について日本語の解説と関連情報が記載されており、テキスト問題を全問解く上で心強い内容でした。
さらに、要点ノートと補助レジュメには、各設問のランク (A, B, C) が表示されており、落とすにはいけないA, Bランク問題がどういった設問なのか把握しながら学習することができ、試験前日の見直しにも役立ちました。
また、受験申込の手続きから試験の相談まで、TACの講師の皆様のサポートは迅速で手厚いものでした。特に小泉先生にはUSCPA受講のときから細やかにサポートいただき、大変感謝しております。

Q5. 合格までの学習期間・学習情報

- 学習期間：1年2ヵ月
- 総合学習時間：500時間程度 (平日30分-1時間、土日は各2-3時間)
- 各科目のおおまかな学習割合：※総合学習時間=100%とした場合
⇒ Part1：40%、Part2：50%、Part3：10%

Q6. 合格までの学習法

2023年4月に受講を開始しました。
勉強時間は、平日30分-1時間、土日は各2-3時間のペースで進めました。
ただ、この学習ペースではGLEIMのテキスト問題を1回転させるまでに時間がかかり効率が悪く、同じ設問を何度も間違えました。そこで、間違えた設問にマーク付けて、そのマークをつけた設問のみ繰り返し解くことで効率を高め、正答できるまでテキスト問題を繰り返しました。
各Partの勉強方法は以下になります。

Part1

TACの厳選問題要点ノートを通勤時間(20分ほど)で解き、不正解の問題にマークすることから始めました。それから補助レジュメ(GLEIM全問ポイント日本語解説集)を用いて、GLEIMのテキスト問題に取り組みました。GLEIMテキストのAランク、Bランク問題は確実に解けるようになるまで繰り返しました。オンライン問題については、最初はランダム10問程度を10回ほど繰り返していましたが、1回あたりの設問数が少ないためか設問に偏りができたので中止し、試験1ヶ月ほど前に100問ランダムに1回だけ取り組み(60点台でした)試験にのぞみました。実際の試験では見たことがない設問が数多く出題され、一通り解答したものの4割ほどの正答率といった印象で全く自信がありませんでした。一方で残り時間にかなり余裕があったので、設問と各選択肢を照らし合わせ消去法で正解を導きだす見直し作業を繰り返し、解答を修正しました。この作業は意外と功を奏し、最終的には6割正答できたかなという印象で試験を終えました。それでも微妙な出来であったことから、「結果はfailだろう、でも見たことない設問は勉強しようがないし、困ったな～」と思いながら試験後のSurveyを入力していましたが、Survey提出後の画面にpassと表示され、とても嬉しくほっとしたことを覚えています。受験後の感想としては、GLEIMテキストのAランク、Bランク問題を確実に解けることが重要で、受験生の多くが解けないと思われる見たことのない難題や、Cランク問題は採点に大きく影響しないのかもしれませんが。その観点では、オンライン問題は数字改訂の確認や試験画面に慣れるには必要ですが、基本的には厳選問題要点ノートと補助レジュメを用いたテキスト問題の繰り返し学習で十分だと感じました。

Part2

Part1同様に、TACの厳選問題要点ノートを通勤時間(20分ほど)に読んで、解答できない問題にマークすることから始めました。それから補助レジュメ(GLEIM全問ポイント日本語解説集)を用いて、GLEIMのテキスト問題に取り組みました。もともと、10月のPart1受験の4か月後である2月に



念願のダブルライセンス取得！（続き）

今井 裕 さん

2024年6月 EA試験合格

- ・ Part1（2023年10月） / 1回目
- ・ Part2（2024年6月） / 1回目
- ・ Part3（2024年6月） / 1回目

- ・ 2022年 USCPA 全科目合格
- ・ 2023年 USCPA License登録
- ・ 製薬会社へ勤務

Part2を受験予定でしたが、Part2は思ったよりボリュームがあり、会社の事業形態ごとに若干異なるBasisの計算、清算/非清算分配などへの理解が曖昧なパートが残ってしまったため、6月受験に切り替えました。その後、Part2の理解が急に進み、同じ問題を回転させるのに飽きてしまったため、Part3の学習も平行して進めることにしました。Part2は100問ランダムを試験2ヵ月前に1回、試験1ヶ月前に1回の合計2回取り組みました（いずれも60点台でした）一方、Part3を試験1-2週間前まで平行して勉強していたためか、Basisの計算、清算/非清算分配のパートの理解が直前になって再び曖昧になってしまい、試験前の2、3日間でTACの厳選問題要点ノートの全設問、GLEIMのテキスト問題のマークした設問を1回転させ頭を整理しました。実際の試験では、Part1試験のように見たことなく解けない設問はそれほどなく、8割程度できたという印象で試験を終えました。ただ、Aランク問題を間違えることで採点が低くなるリスクも考え、見直しは時間いっぱい入念に実施しました。こちらでもSurvey提出後の画面にpassと表示され、ほっとしました。

Part3

事前に合格者の体験記を読んでいたことから、Part3の分量は少ないものの、甘く見ず十分な準備が必要であることを理解していました。まず、TAC厳選問題要点ノートで要点をつかみGLEIMのテキスト問題で繰り返し学習しました。GLEIMテキストの問題数はあまり多くないため、オンラインのランダム100問を繰り返し解き、間違った箇所については、GLEIMテキスト内の英文の説明箇所を探してマークし、後でテキストを読み返した際に復習できるようにしました。オンラインのランダム100問は試験1ヶ月前の段階で60点台でした。6月にPart2とPart3の2科目を受験する予定であったため、試験直前の1-2週間はPart2を優先し、Part2の試験4日後にPart3を受験しました。Part2の受験後に帰宅してから、頭を切り替えようとPart3の100問ランダムに取り組みましたが、不安になるような過去にない悪い点数で焦りました。そこで、その日のうちにTAC厳選問題要点ノートを再度1回転し、GLEIMテキストにマークした英文の説明箇所を一通り見直しました。そして翌日にオンラインのランダム100問を再度解いたところ60点台に戻っていました。それから試験日まで100問ランダムを追加で4回繰り返し、間違った設問については、テキストの説明記載を探して再度マークし、コメントを入れる作業をしました。この繰り返しで

試験前日には79点になっていました。実際の試験では、3-4割は見たことない問題が出題されましたが、そのうちの半分くらいは設問を読めばそのまま回答できる簡単なもので、全体として8割程度できたという印象で試験を終えました。ただ、Aランク問題で解答に迷ったものがあり、合格したかどうかはかなり不安でしたが、Survey提出後の画面にpassと表示され安心しました。受験後の感想としては、計算問題のPart1やPart2とは異なり、記憶勝負のパートなので、1-2週間ほど勉強しないと記憶が曖昧になる傾向のある科目のようにも思います。また、オンラインのランダム100問を繰り返し解いていると、意外とAランク問題が手薄になってしまうので、オンライン問題の繰り返しに加えて、試験直前にAランク問題も見直しが必要なパートのように思います。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

PTINの取得に伴いパスポートのnotarizationが必要で、米国大使館へ事前予約する必要があります。私のケースでは、米国大使館の予約が1か月ほど埋まっていた。最終的には受験に間に合ったものの、試験に間に合わないのではないかと冷や冷やしました。米国大使館の予約、PTINの発行までの期間も考慮し十分な余裕をもって登録することをお勧めします。パスポートのnotarizationで米国大使館を訪問した際、これからEA試験にチャレンジするんだという実感が湧き、とても新鮮な気分でした。米国大使館は持ち込み可能な荷物に制限があるので、事前のチェックも必要です。

Q8. 勉強したことが仕事に役立っていることは

USCPAのREG科目でカバーされていない範囲も試験対象になるため、米国の税制への理解がとても高まりました。EA試験の学習を通して、より税制に興味を持ちました。

Q9. これから合格を目指す方へのアドバイス

USCPAのREG科目の学習経験がある方であれば、REGを復習しながらプラスアルファの学習で合格できる資格かと思います。税制への理解も深まり、楽しみながら資格の取得ができる点もお勧めです。



会計知識と英語力の証明になる

Y.I さん

2024年10月 EA試験合格

- ・ Part1 (2024年 6 月) / 1回目
- ・ Part2 (2024年10月) / 1回目
- ・ Part3 (2024年10月) / 1回目

・ 日本の税理士

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

税理士登録完了後、さらに自分の能力を向上させるような勉強をしたいと考えているとき、仕事でUS法人の申告書を見る機会があり、Enrolled Agentの取得に興味を持ちました。また、将来的にはアメリカへの出向を目指していることもあり、アピール材料の一つになると考えたためです。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

- ・ 会計知識：税理士
- ・ 英語知識：仕事で英語のメールのやり取りをする程度。

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

税理士取得に際し、TACにお世話になったため。
また、Enrolled Agentの講座を開講しているのは現在TACだけだったから。

Q4. TACの講座でよかったところ

英語のテキストで大事なところを日本語で詳細に解説されており、とても効率的に勉強ができた。
また、膨大な量の問題集についても、AからCのランク分けがされており、重要な論点に絞って時間をかけることができた。

Q5. 合格までの学習期間・学習情報

- ・ 学習期間：すべてのパートについて、それぞれ2か月程度。

Q6. 合格までの学習法

まずは動画で一通り授業を視聴し、その後はひたすらAランクとBランクの問題演習を行いました。
問題演習時は、英語の問題についてすべて翻訳アプリを使って日本語に変換した上で演習を行い、分からない英単語は別途色付けをして試験直前に丸暗記しました。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続は少し難しい点があり、TACのサポートを受けたおかげでスムーズに受験をすることが出来ました。

Q8. 勉強したことが仕事に役立っていることは

英語力が向上した自覚があり、また、US税務への理解が深まったことでスムーズに申告書を読めるようになりました。

Q9. これから合格を目指す方へのアドバイス

Enrolled Agentは実務でUS税務に関わる方だけでなく、これから就活を行う学生の方も、一定程度の会計知識と英語力があることを証明するのに役立つと思います。
また、試験を受験し終えた瞬間に結果が分かるのもストレスがなくとてもいいと思います。



効率的に合格できるTACのカリキュラム

M.Iさん

2024年1月 EA試験合格

- ・Part1 (2024年1月) / 1回目
- ・Part2 (2024年1月) / 1回目
- ・Part3 (2024年1月) / 1回目

- ・米国会計事務所に勤務
- ・仕事では個人・法人のタックスリターン（確定申告）を担当

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

縁があってアメリカの会計事務所に勤務することになり、そこで日々仕事を覚えていくなかで「体系的な税務の知識を身につけたい」と感じたのがきっかけです。はじめはUSCPAを受験するつもりでしたが、要求される受験資格が特になく、かかる費用においてもハードルが低いEAにチャレンジすることにしました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級程度
英語知識：TOEIC® L&R TEST：915点

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

EAの予備校として実質的に唯一の選択肢であったのが最大の理由ですが、大手予備校であることによる安心感も理由のひとつです。また、サンプルとして拝見したテキストの出来が良かった点も決め手となりました。

Q4. TACの講座でよかったところ

「ここまで理解していれば合格する」というラインを意識して指導してくださった点が、TACのEA講座における最大の魅力だと感じます。Gleimの紙テキストでさらっと触れられているだけの細かい知識などはTACテキストでは省かれており、そのため試験本番では「そんなの聞いたこともない」という単語に出会うこともありますが、それでも講義で習った部分さえマスターできていれば、比較的余裕のある点数で合格できるようになっています。効率良くEA合格を目指すうえで、TACのカリキュラムは本当に強いと感じました。

Q5. 合格までの学習期間・学習情報

- ・受講コース：EA本科生
- ・学習期間：5か月ほど（2023年9月初旬に学習開始、翌2024年1月下旬にPart 1～3を受験）
- ・総合学習時間：300時間程度
- ・各科目のおおまかな学習割合：※総合学習時間＝100%とした場合
⇒ Part1：35%、Part2：40%、Part3：25%

Q6. 合格までの学習法

バランスよくインプットとアウトプットを繰り返すのがポイントだと感じます。特にTACでは、講義動画をスマホ等にダウンロードできるのはもちろん、音声だけをバックグラウンド再生できるアプリを採用していますので、通勤中に歩きながらでも講義を聞いて勉強できるようになっています。移動時間が長い生活を送っているため、この点は本当に助かりました。また、問題集も「USCPA用問題集」「Gleimの紙問題集」「Gleimのオンライン問題集」の3種類があるため、多くの問題に触れることができ、アウトプットの質も担保されていると感じます。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

3科目を3日間連続で一気に受験することにしたのですが、申し込んだ直後は「期間をあけて少しずつ受けるほうが良いのかな……」と悩んでいました。しかし、実際はPart 1～3が互いに深く関係しているため、むしろ一気に全科目を勉強していくほうが効率が良いことに気付きました。3日連続で3.5時間のテストを受け続けることになるため体力は必要ですが、意外とおすすめできる受験スタイルだと思います。

Q8. 勉強したことが仕事に役立っていることは

仕事内容がまさに個人や法人のタックスリターン（確定申告）ですので、かなりの頻度で「あのテキストに載っていた内容は、実務ではこのように登場するのか！」という気付きがあります。逆に、学習時やテストの最中に「仕事でやった内容だ！」と感じるタイミングもしばしばありました。

Q9. これから合格を目指す方へのアドバイス

講義中、先生がことあるごとに「基本の問題ができればOK。チャレンジ問題は余裕があれば」とおっしゃいますが、この言葉のとおり、基本的な問題をマスターすることが合格の最短経路だと思います。TACのテキストを隅々まで理解・暗記できれば高確率で合格できるようになっていますので、TACのカリキュラムや先生を信じて頑張ってください！



米国事業に関わるうえで不可欠な知識を効率的に獲得できました

渡邊 明輝 さん

2023年6月 EA試験合格

- ・ Part1 (2022年10月) / 1回目
- ・ Part2 (2023年 1月) / 1回目
- ・ Part3 (2023年 6月) / 1回目

- ・ 慶応義塾大学2019年卒業
- ・ 石油・天然ガス開発の会社で海外M&A担当

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

USCPAを学習中、一番興味をもって学習できたREGの税法パートをさらに深掘りして資格を取得したいと思い、USCPAの資格取得後にEAにチャレンジしました。

米国税法に興味を持った理由は以下の通りです。

- ①ローカルルールである税法は、米国カラーが色濃く出ており、米国の政治・文化が透けて見える。
- ②税法を学ぶことで、節税という目に見える形でのリターンにつながる。
特にそのような機会が米国は豊富だと感じています。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：USCPA

英語知識：TOEFL iBT：106点、TOEIC® L&R Test：960点

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

調べた限り、日本国内でEAの資格取得講座を提供しているのはTACでした。

USCPAの学習は、TACではなく他の予備校を利用していましたが、要点を日本語で効率的に学ぶのが近道だと認識していたので、独学はしませんでした。

Q4. TACの講座でよかったところ

合格に必要な要点のみに絞っているところ。

付属のGLEIM教材には、試験にほとんど出ない論点まで詳細に記載されており、それをスキップして短期合格を目指すのがTACを利用するメリットだと思います。

USCPA学習経験者用のEA対策コースを受講しましたが、(USCPAでの学習内容を前提として)EA特有の論点に絞っており、さらに効率的に学習できたと思います。

Q5. 合格までの学習期間は？

1年3か月

Q6. 合格までの学習法

講義の録画を聞きながら、要点レジュメを解き、一周後にGLEIM問題集を何周か解きました。重要と感じた論点は、問題そのまま、もしくは問題を簡略化した自作問題をメモして、翌日にその部分の解きなおしから始めることを習慣化していました。

税法の数値は毎年変更されますが、Part 1→2→3の順で変更対象となる数値が多いので、特にPart 1は教材が最新のうちに受験することをお勧めします。

Part 2はパートナーシップ、C-corp税法がメインとなるため、数値よりも出資、分配等のルールの理解が重要、Part 3は手続・規則ですので、毎年変更するような数値はほとんどありません。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

些細な点ですが、受験会場の受付では試験名をEAではなく、IRSと伝えたほうが良さそうです。CPA試験も同時開催しているため、EAと伝えたところ、CPAに聞き間違い?されて混乱が生じてしまうことがありました。

本番の試験問題は初見の問題、難問が意外と多く感じられますが、TACの教材に載っていないものは落としても合否には影響しないので、気にせず分かる問題のみ着実に回答しましょう。

Q8. 勉強したことが仕事に役立っていることは

現職では米国M&Aを担当しており、事業買収後の節税額の試算などにおいて米国税法の知識が(学習開始時に予想していた以上に)直接役に立っております。実務上扱うのはEA試験より複雑な内容が中心となりますが、その基礎をEA学習を通じて体系的に学習したことで、発展的な内容を理解するのに大いに役立っています。

Q9. これから合格を目指す方へのアドバイス

国によって大きく異なるわけではない財務会計ルールと異なり、米国事業に関わるうえでは「米国の」税法理解が不可欠です。

事業会社、コンサルタント、個人問わず米国事業に関わりたいと考えている方にとって、米国税法の基礎を網羅的に学習できる点で、EA試験は意義のあるものだと思います。

TACの教材で要点を押さえながら学習すれば、着実に合格できる試験です。税法から漂う米国の雰囲気・香りを楽しみながら学習してみてください。



間一髪で全科目合格

H.N さん

2023年 1月 EA試験合格

・ Part1 (2023年 1月 / 2回目)
・ Part2 (2020年 2月 / 1回目)
・ Part3 (2020年 2月 / 1回目)

・ 総合商社に勤務
・ その他、統計調査士、専門統計調査士の資格を取得

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

ここ数年間、語学系の資格取得に注力して来ましたが、語学+αのスキルの重要性を年々感じていました。
自分が興味を持っている分野で、語学力も証明出来る資格を探していた際に米国税理士試験のことを知り、チャレンジしようと思った次第です。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記3級
英語知識：英検1級、TOEIC®L&R TEST：910点

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

友人が過去にUSCPAを学習した際、TACの講座を受講していて、内容が充実していた旨を伺いましたので、TACを選びました。

Q4. TACの講座でよかったところ

TACのEA講座は受講料が低廉に抑えられており、受講しやすいと思います。
また、演習講義やGLEIMの全問ポイント日本語解説集が分かりやすく、間違えた問題もどこがどう間違ったのかが理解出来ます。

Q5. 合格までの学習期間は？

全体で約1年だったように思います。
途中でコロナ禍のため2年8か月の間、日本での試験が中止になり、空白期間がありました。

Q6. 合格までの学習法

まずは演習講義のDVDを見て演習を行いました。
その後間違えた問題を最低5回解き直しました。
また、GLEIMについては全問解き、試験直前にはオンライン演習を実施しました。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

以前、米国勤務時にSSN(社会保障番号)を取得していたので、PTIN(米国申告書作成番号)申請時にその旨記入したところ、SSNの公証が必要になりPTIN発行をrejectされました。
米国大使館を再訪し事情を説明したところ、大使館の係員の方が機転を利かせて下さり、すぐに

SSNの公証書類を作成して下さり感謝しました。
受験時は、出題範囲が広いことから、最初にPart-2を受験し合格。
次に比較的合格率が高いPart-3を受け合格。
続いてPart-1を受験しようと思った矢先、日本試験が中止になってしまいました。
その期間が2年8か月に及び、コロナ禍で合格済科目の有効期限が2年→3年に延長されたものの、度重なる試験中止に伴い合格済creditの失効が迫って来て焦りました。

2022年10月に漸く日本試験再開、残っていたPart1を受験したところまさかの不合格。
重要数値を十分にupdate出来ていなかったのが原因と思います。
2023年1月～2月の試験で失敗すれば後が無くなってしまふ為、最新Editionを受講し直し、年末年始休暇中必死になってGLEIMを解いたところ、1月25日に受けた試験で漸く合格。
Part2のcredit有効期限が2週間後に迫る中、何とか滑り込みで全科目合格出来ました。

試験後、CaliforniaのPrometricから来られた試験官の方に"Thanks. Successfully passed!"と話したところ、"Congratulations!"と言って握手をして下さいました。
念願が叶った瞬間でした。

Q8. 勉強したことが仕事に役立っていることは

新聞の国際税務関連記事を読む際、以前よりもよく分かるようになりました。
また、業務上国際税務の打ち合わせを行うことがありますが、以前よりも深い議論が出来るようになったと思います。

Q9. これから合格を目指す方へのアドバイス

ここ数年、日本試験が中止になり、もうEA試験に合格するのは難しいかとも思うことも有りましたが、必ず再開の日が来ると自分に言い聞かせ、少しずつ学習を継続して来たところ、漸く合格出来、諦めないで良かったと思いました。
今後コロナの沈静化に伴い、以前同様の受験環境に戻ると思います。
日本のEA登録者は現状少数と思いますが、日本受験再開を機に多くの方にEA取得を目指していただけたらと思います。
私は飲み込みが遅く、税務・会計分野は全くの素人でしたが、何とか合格出来ました。
こつこつ努力すれば必ず報われる試験だと思いますので頑張ってください。



ダブルライセンス取得！

北川 久子 さん

2023年1月 EA試験合格

- ・ Part1 (2020年 2月) / 1 回目
- ・ Part2 (2022年10月) / 1 回目
- ・ Part3 (2023年 1月) / 1 回目

1985年生まれ
 2019年に神戸市外国語大学を卒業
 Big4監査法人に勤務
 海外留学経験あり

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

2017年末にUSCPA（米国公認会計士）の試験に全科目合格をし、学習当時からREGの勉強が好きだったこと、また、プラス・アルファで得意な分野を作りたかったので、USCPAに合格したらEA（米国税理士）の資格をとろうと思っていました。そのため、2018年に「USCPA（TAX）学習経験者のためのEA対策」に申込みをしました。ただ、監査法人への転職や、繁忙期と時期が被ってしまったため、かなりのスロースタートとなってしまいました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：USCPA（2017年全科目合格）
 英語知識：TOEIC®L&R TEST：955点、英検準1級、通訳案内士（英語）

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

USCPA受験中（2015年～2017年、他校で学習）当時、点数が伸び悩んだ時は、通っていた予備校の教材にプラスして、TACのTBS直前対策や、BECKERテキスト、問題集、オンラインソフトを購入し対策をしておりました。TACの教材が、合格に結び付いたのは言うまでもありませんが、特にREG対策にて有効と感じたため、EA対策をするならTACと決めておりました。

Q4. TACの講座でよかったところ

「USCPA（TAX）学習経験者のためのEA対策」では、USCPAにて既習の範囲（Aランク）、EA特有の上級論点（Bランク）、チャレンジ問題（Cランク）に分けられていたため、効率よくUSCPA範囲の復習（A）、EAプラス・アルファの知識（B）、チャレンジ内容（C）、と濃淡を付けることができたと感じています。USCPA受験生時代のテキストに戻るということも少なかったと思います。またコロナ禍による日本受験中止のため、試験を受ける機会のなかった2019Edition以降の受講生については、無料で最新の資料や講義を提供いただき、大変有難く思っております。

Q5. 合格までの学習期間は？

トータルで7～8か月程度かと思えます。

Q6. 合格までの学習法

・PART1&PART2：
 試験対策としては、Aランク、Bランクの問題について、講義&厳選問題→GLEIMオンラインソフトを使って模擬試験（数回）、という流れで基本的には問題ないかと思えます。ただ、MC問題になっていないコラム的な解説についても、必ずすみずみまで読んで暗記（時間があれば関連する法令についてWebsiteを見るなど）するようにしてください。私は、勉強していない分野があると精神的に良くないと考えておりますので、Cランクまで全て解けるようになるまで学習を続けましたが、特にPART2に関しては、Aランク、Bランクのレベルをしっかり解けるようにするのが重要かと思えます。USCPA受験の時から使用していた伊藤 公哉（2019）『アメリカ連邦税法<第7版>』中央経済社も適宜参照しました。パートナーシップからの分配（B&Cランク）などにおいて、計算過程が複雑になればなるほど、何のためにその税法が作られたのか、何のためにその手順で税額が計算されているのか、深めるように心がけました。気になる方は書店で最新版をチェックしてみてください。

・PART3：
 試験範囲も狭く、合格率も高い科目ですが、3科目の中で最も実務的で、非常に難しく感じました。USCPA受験の経験から、計算問題の少ない科目が特に難しいと感じたので、EAに於いてもかなり練られた問題が出るのではないかと思います、入念に準備しましたが、予感的中しました。講義、厳選問題→全問題集を解いた後、GLEIMオンラインソフトで模擬試験をやることはPART1、PART2と変わりませんが、オンラインソフトの問題数が約500題しかないの、単元ごとに全ての問題を解くことをお奨めします。私は、知らない知識が出てきたら、厳選問題集や、GLEIMテキスト問題集の解説冊子に書き込んだり、別にノートにメモしました。また、曖昧な記憶をなくすため、厳選問題やGLEIM全問題集の解説部分は、手やノートで隠して、その状態で言えるか毎日確認していました。結果、GLEIMオンラインソフトはどの単元もほぼ全問正解できるようになりましたが、それでも本番のほうが格段に難しく感じました。本番中、4つの選択肢の中から2つの選択肢までは絞れるのですが、最後の1つまで絞ることがなかなかできない問題が多く、ひょっとしたら不合格かもしれない、と心配になりましたが、結果合格しており、ほっと致しました。PART3に関しては、最低限、曖昧な知識を絶対に残さないように勉強することがポイントかと思えます。（⇒ 次のページに続きます！！）



ダブルライセンス取得！（続き）

北川 久子 さん

2023年1月 EA試験合格

- ・ Part1（2020年 2月） / 1回目）
- ・ Part2（2022年10月） / 1回目）
- ・ Part3（2023年 1月） / 1回目）

1985年生まれ
2019年に神戸市外国語大学を卒業
Big4監査法人に勤務
海外留学経験あり

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

2020年2月にPART1を受験し合格しましたが、その後2022年10月まで日本会場での試験が、コロナ禍により中止になってしまいました。この2年8か月の間、勉強はすれど、直前で試験中止のメールを10回以上受け取り、一体いつ受験できるのだろうか、大変落ち込みました。

PART1のExpireが迫った2022年10月に試験が再開され、残り2回（2022年10月、2023年1月）で残りの科目（PART2、PART3）に合格しなければならない状況に追い込まれました。

10月に2科目受けることも考えましたが、「1Window（受験期間）に1科目受ける」、というUSCPA受験時代の自分のリズムを貫くことに決め、10月はPART2のみ受験、PART3は翌年1月に一発合格することに賭けました。試験中、PART3が相当難しく感じたため、一発合格を目指したのはまずかったと一瞬頭をよぎりましたが、合格していて良かったです。

プロメトリックでの受験に関してですが、2020年に受験した時は受付が日本人の方でしたが、2022,2023年に受験した時は、IRS担当者であるアメリカの方が受付をすることになっていました。そのため、受付時に簡単な英語を話すことになるかと思えます。

自身は過去にUSCPA受験のため何度もプロメトリックに通ったため、プロメトリック受験には非常に慣れておりましたが、過去に比べて注意書き（「試験中、靴を脱がないでください」、など）が、相当増えたと思います。

はじめてプロメトリックで受験される方は、事前に注意事項を確認したうえで、会場に向かわれるとよいのかなと思います。

Q8. 勉強したことが仕事に役立っていることは

現在の業務で直接、EAの知識を使うということはないのですが、海外案件や海外アサインにアプライする際にはアピールしたいと思っております。

Q9. これから合格を目指す方へのアドバイス

自身は、コロナ禍の試験中止の影響で、PART1からPART2,3まで学習間隔がかなり空いてしまう時期があったのですが、3つの科目は関連し合っていますので、できるだけ科目と科目の間は空けずに受験されることをお奨め致します！

特にUSCPAのREG学習経験のある方は、税法の知識を更に深めながら学習できる良い機会になると思いますので、是非頑張って資格取得に励んでいただきたいと思います！！



日本でのEA試験再開！

佐藤 和充 さん

2023年1月 EA試験合格

・ Part1 (2022年10月) / 1回目
・ Part2 (2022年10月) / 1回目
・ Part3 (2023年1月) / 2回目

・ 1970年生まれ、1992年青山学院大学卒業
・ 大手監査法人に勤務

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

仕事柄、米国の会計や監査に接する機会はありましたが、税務との接点は少なかったことから、会計のプロとして、米国の税務知識も身に付けようと思ったことが主な理由です。加えて、英語での試験となるため、試験勉強を通じて英語力の向上も図ることができるという副次的効果も期待していました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日本の公認会計士
英語知識：TOEIC®L & R TEST：835点

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

日本の公認会計士試験受験の際、TACにお世話になっていたこともあり、試験合格メソッドが詰まっているTACに対する信頼度が高かったことが理由です。

Q4. TACの講座でよかったところ

講師の説明は、試験の出題を意識したメリハリの利いたものであり、大変分かりやすいものでした。また、テキストはポイントが絞られて作られており、大変学習しやすいものでした。カリキュラムも受験生を過度に追い込むような構成にはなっておらず、働きながらもペースを維持して学習を継続できるスケジュールとなっていました。

Q5. 合格までの学習期間は？

実質的には6か月程度だと思います。

Q6. 合格までの学習法

TACのカリキュラムに従って学習を進めるのが最も効率的だと思いますが、やはり最後はテキストと問題集を何回転させるかが勝負だと思います。特に、短時間で英文を正確に読み取って正解を導き出すには、徹底的なアウトプットトレーニング（繰り返し）が必要だと思います。また、意外に穴なのはPart3で、分量も少ないからと言って甘くみると足元をすくわれます（私も一度失敗しました）。

Part1、Part2は冊子の問題集でアウトプットトレーニングは十分だと思いますが、Part3は範囲が狭く細かい問題も出題されるため、Gleimのオンライン問題集も含めてアウトプットトレーニングを繰り返す方が良いと思います。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

最初のPTIN登録のconfirmationがIRS（内国歳入庁）から送られてこなかったため、直接IRSに電話して交渉した際、自分の発音が悪く、スペルの「M」をIRS職員になかなか理解してもらえなかったのには苦労しました。

また、私の場合、コロナの影響で日本でのEA試験開催が中止されていたため、いつ試験が受験できるかわからない中で、試験受験のモチベーションを維持するのが難しかったです（“試験のため”というよりは“自分の知識がより充実する”と前向きに捉えてモチベーション維持していました）。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

この試験は諦めなければ必ず合格する試験だと思います。また、この勉強を通じて英語の能力も格段に向上すると思います。この一粒で2度おいしい試験にチャレンジしないという選択肢はないと思います。自分の付加価値の向上を期待し、自分とTACを信じ、最後まで頑張って合格を勝ち取って下さい。



コロナ禍でのEA受験

横山 和弘 さん

2022年 10月 EA試験合格

・ Part1 (2020年 2月) / 1回目
・ Part2 (2022年10月) / 1回目
・ Part3 (2022年10月) / 2回目

・ 1985年生まれ
・ 税理士法人に勤務

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

業務において外国人の税務相談や確定申告に携わる機会がありました。その中でも米国関係のクライアントが多く、米国税務関係書類だけでなく体系的に米国税務を学ぶことで業務に活かせると思いました。また比較的短期間で取得可能な資格だと思ったことが理由です。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日本の公認会計士
英語知識：英検準一級

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

Part 1は海外の教材を使用し、独学でPassしましたが費用対効果がよくないと個人的に思いました。もっと効率的に残りのPartをPassしようと思い、EAの日本における合格者を多数輩出しているTACでの受講を決めました。

Q4. TACの講座でよかったところ

TACの要点ノートは押さえないければならない重要な論点が非常に分かりやすくまとめてられており、GLEIMの問題集はTACでは重要度別に『A・B・C』のランク分けをしてくれていたのが試験を見据え強弱をつけた勉強をするうえでとても助かりました。また改正点等をタイムリーにアップデートするフォロー体制もとてもよかったと思います。

Q5. 合格までの学習期間は？

新型コロナウイルスによる渡航・入国制限により途中2年8か月受験できない期間があったため、2019年12月に勉強を始めてから合格まで約3年かかってしまいました。

Q6. 合格までの学習法

講義によるインプットを終えた後は時間を見つけてGLEIMのテキスト問題集をひたすら解いていました。問題集を解きつつ、理解していない・覚えていない点を見つけテキストに戻るといったのを繰り返していました。

GLEIMのOnline演習は試験前に集中的に利用しました。個人的にはPart3は全ての問題を解いた方がよいと思います。Part3の合格率は一番高いですが計算問題がないため誤魔化しがきかず、あいまいな理解・記憶のまま臨み一度落としてしまったのは後悔しています。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

上述の通り、新型コロナウイルスの影響により、Part1をPassした後、2年8か月のあいだ残りのPartを受験することが出来ませんでした。試験の準備をしても本試験が実施されず、直前でキャンセルメールを何回も受取り心が折れそうになりました。先に取得していたPart1の有効期限が迫っていたので焦り、IRSに受験できないのはFairではないとメールもしてみました。特例を与えるとの返答でしたが、結果として期限切れ前に受験し合格することができてほっとしています。

Q8. 勉強したことが仕事に役立っていることは

クライアントに対して受験勉強で得た知識に基づいたアドバイスやトークが出来るようになりました。また海外案件の仕事の割合を増やすことができ、今後も出張等多くの機会を与えてもらえそうです。

Q9. これから合格を目指す方へのアドバイス

私は結果的に受験期間が長くなってしまいましたが諦めないでよかったと思っています。EA受験生は社会人の方が多く、忙しい日々の中で時間を確保しての挑戦になると思います。家族や会社など、周りからのサポート・理解に対する感謝を忘れず受験日を迎えていただければと思います。



USCPAの学習と並行して効率的に合格

K.Mさん

2019年12月 EA試験合格

- ・ Part1 (2019年11月) / 1回目)
- ・ Part2 (2019年12月) / 1回目)
- ・ Part3 (2019年11月) / 1回目)

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

USCPAのFAR（財務会計）、BEC（ビジネス）、AUD（監査）に合格して、あと1科目REG（税法および商法）が残っていましたが、最新の税制を反映した教材を探す中でEAの存在を知り、REGと並行して学ぼうと思ったことがきっかけです。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級、USCPA（FAR、BEC、AUD）

英語知識：TOEIC®950

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

元々TACの講師の方々は親身で教え方がとても分かりやすいとの印象を持っており、また教材も分かりやすそうだったため決めました。

Q4. TACの講座でよかったところ

英文のテキストを見ると量が多く内容も難解で一瞬怯みますが、TACの教材はこれらのテキストをベースに要点を押さえて分かりやすく纏められていました。

特に「直前対策まとめ」は内田先生が受講生時代に纏められたものがベースとどこかで伺いましたが、「受講生目線」でポイントが本当によく整理されており、重宝しました。

また小泉先生の講義も具体例などが織り交ぜられており、分かりやすかったです。

制度面では講義内容をスマホにダウンロード出来、いつでも視聴できた点もよかったです。

Q5. 合格までの学習期間は？

USCPAのREGの学習と合わせて、約6ヶ月ほどかかっています。

学習内容を大まかに言えばUSCPAは基本（Simulationは応用ですが）、EAは実務・応用といった感じで、まずはUSCPAを優先して、その学習の流れでEAに取り組んだことでより理解が深まった気がします。

Q6. 合格までの学習法

まずは簡単に各Study Unit内の説明文や問題に目を通して、疑問点をあぶり出してから各Study Unitの講義を視聴すると理解が深まりました。

講義内の問題を解いた後、Gleim問題集の全問題、次にA、Bランクのみ、そして最後に誤答した問題を解き直しました。また試験の操作に慣れる目的でGleimのオンライン問題も200問ほど解いてみました。

ただ、あくまでも個人的な見解ですが、実際の試験では初見の問題が少なくなかった気がします。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

Social Security Numberをお持ちの方は、パスポートと同じ面にカード両面の公証を得るようにされた方がよいと思います。（私は始めカード片面のみにて公証を得てIRSに提出したところ否認され、米国大使館への再訪やカード両面の公証に費用の再負担を余儀なくされました涙）手続きを進めるにあたり、電話・メールの相談窓口にお問い合わせしましたが、当方の諸々の相談に対して親身に、且つ迅速・丁寧にご対応いただき、一連の手続きを通じてとても心強かったです。

また受験時に関しては、Gleimのオンライン問題をもう少し対策していればもっと余裕があったかも知れませんが、上述の学習法を取っても初見の問題が少なからずあり少し焦りました。

問題文と解答の選択肢をよく読めば学んだ内容で何となく感覚的に解けるものも結構ありましたが、全く見当がつかないものもありました。

EAはUSCPAと比べると試験時間にかなり余裕があるものの、一部解答に自信が持てず、慎重に見直して結果的にほぼフルに時間を使い切りました。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

TACの教材とGleimの問題集（TAC教材の1つはGleim問題集の全問解説）のみでも十分にレベルアップが図れると思いますが、試験や問題・出題の形式に慣れるためにもGleimのオンライン問題

（難問も結構含まれている）にもできる限り挑戦していただいた方がよいと思います。

ご健闘をお祈りします！



ほぼ知識ゼロから半年で合格へ！

井上 雄策 さん

2019年2月 EA試験合格

- ・ Part1 (2019年1月) / 1回目
- ・ Part2 (2019年2月) / 1回目
- ・ Part3 (2019年2月) / 1回目

1988年生まれ、松山大学卒業
株式会社Crossover International
ハワイ州不動産免許、米国税理士免許を所有し、現在、株式会社Crossover Internationalのハワイ法人Crossover Realty Hawaii LLCにてハワイ不動産のセールスマネージャーを担当。
2011年よりハワイに移住し仕事を始め、不動産業だけでなく小売店のマネジメントも経験。

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

米国で不動産売買を取り扱う中で、税務の知識は必要不可欠だと感じたため。また、会社からのサポートも得られたので、短期間で取得を目指して取り組んだ。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：ほぼ無し

英語知識：英検準一級、TOEIC® L&R TEST：925点、英語：ビジネスである程度通用するレベル

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

会計知識をほぼ持ち合わせていなかったため、日本語で受講できる教材を探している中でTACの教材が良いという口コミをウェブサイトで見つかった。その後、TACで直接話を聞き、実際に教材も見せてもらい、TACの教材は細かく情報を網羅してくれていると感じたので受講を決めた。

Q4. TACの講座でよかったところ

実際にメールで内田講師に質問ができたところ。
「直前対策まとめ」に端的に全てまとまっていること。

Q5. 合格までの学習期間は？

2018年10月から2019年2月の5ヶ月程度。

Q6. 合格までの学習法

とにかく全てDVDを見て、基本知識を身に付けることから始めた。
各パートの講義を見終わった段階で、問題集のA&Bランク（出題される可能性が高いもの）を重点的に解いた。
模擬試験は1度ずつ解いて、間違ったところは見直し、テスト直前はこの繰り返しと「直前対策まとめ」を何度も見て数字を記憶するように努力した。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

本試験では、問題集に出てきた問題もあり安心して解く事ができた一方、全く見た事がない問題もあった。そういったものは後回しにして分かるものを全て解き、その後、ゆっくり考えて残りの問題を解くようにした。
とにかく、勉強した問題だけは間違えないように、落ち着いて解くことを心がけて試験に臨んだ。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

自分には長期間での学習よりも、短期間で学習した方が向いていると思い、一気に学習し臨みました。
2019年2月末までに合格しなければ、税制が変わることで問題も変わってしまうのでは、という焦りもありました。
米国に住み、不動産を取り扱う中でこの資格が役立つことは多くあると感じています。
税務は奥が深く、まだまだ実践して使っていかなければと思う日々ですが、まずはライセンスを取得するというスタート地点をパスできたのはTACの教材のおかげです。
「これ！」と1つの教材を決めて、とことんそれを解き進める事が合格の秘訣かと思います。
どうしても分からなくて行き詰まったときにはメールで講師に質問をする事ができるのも本当に有り難かったです。
合格の報告をして、お返事をいただいた時はとても嬉しく思いました。
これから試験を受ける方も、私と同じようにTACの教材で良い結果を招く事ができるはずですよ。
長い道のりに感じることもあるかと思いますが、ぜひ、頑張ってください！



TACだからこそ成し遂げられた短期合格

小ヶ内 健人 さん

2019年 9月 EA試験合格

- ・ Part1 (2017年9月) / 1回目
- ・ Part2 (2019年9月) / 1回目
- ・ Part3 (2017年9月) / 1回目

法政大学卒業

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

元々USCPAの勉強をしていたのですが、3科目合格した時点でEAという資格があることを知り、プラスαをすることによって、他のCPAとの差別化を図ることができるのではないかと思ったことが、学習を始めた理由です。

CPAのTAXの学習経験を生かして、短期合格を目指すことができるとは思いました。CPAに全科目合格した後に、同じ年内にEAにも合格することができました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：会計は学習経験も実務経験もありませんでした。

英語知識：TOEIC® L&R TEST 650点

TOEIC® L&R TEST の点数は、CPAとEAの学習をしたことによって、730点まで上がりました。一番の副産物かもしれません。

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

以前、父がTACで勉強して、日本の公認会計士の資格を取得しました。その父から会計の資格を取得するならTACが良いと勧められたこともあって、まずUSCPAの勉強をTACで始めました。USCPAの講座でTAXを担当している内田先生の講義が非常に分かり易いと思っていたところ、EAの講義も担当されているということでしたので、EAの講座も受講することにしました。

Q4. TACの講座でよかったところ

Gleimの教材を一から学習すると膨大な量になってしまいましたが、TACではそれを、非常にシンプルにまとめてくれていました。最初は、本当にこれだけで大丈夫なのかと不安に思うこともありましたが、試験に必要なところだけをPick upして、シンプルにまとめてくれていたので、合格までに何をやれば良いのかということを一早い段階でハッキリさせることができました。ゴールまでの道のりが明確であったことが一番大きかったです。途中、トランプ大統領による税制改正があり、Part 2 だけは、変更後の基準で試験を受けることになりましたが、受講生情報サイトにUPされている改定講義やレジュメを確認することで、問題なく受験することができました。改定論点もコンパクトにまとめてあって良かったと思います。

Q5.合格までの学習期間は？

各科目1.5ヶ月くらい、3科目で実質5ヶ月くらいです。

Q6. 合格までの学習法

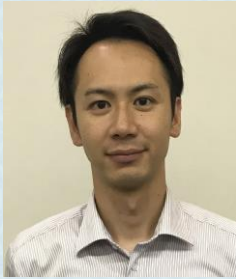
まずは講義を聴いて、厳選問題要点ノートにPick upされている問題を1回転しました。続いてCPAの教材になっている厳選問題集480題を1回転しました。その後は、間違えた問題を中心に上記2つの問題を繰り返しながら、CPAの教材である直前対策総まとめの冊子を使って要点を整理するようにしました。問題を繰り返しながら、EA教材の厳選問題要点ノートには、自分なりのポイント等を書き込むようにして、最終的にはそれだけを見れば十分という形のものに仕上げている、試験直前にはそれを繰り返して見るようにしました。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

米国大使館でパスポートの公証を受けて、PTIN (申告書作成者番号) を取得するところまでは順調だったのですが、年をまたいで受験であったのに、毎年更新すべきPTINの更新を行っておらず、受験手続に時間が掛かってしまったことがありました。PTINについては、時期が来たら、早めに更新しておくことをお勧めします。また、試験会場では、電卓の音等、周りの人が出す音が気になることが多々ありますので、普段からそのような環境に慣れておくことも必要だと思います。私の場合には、TACの自習室を利用して、なるべく他の人もいる中で勉強するようにしました。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

厳選問題要点ノートは非常にシンプルにまとまっているのですが、教材自体が薄いので、本当にこれだけで大丈夫なのかと最初は不安もありました。ですが、ふたを開けてみると、それだけで試験に合格することができる必要十分な教材でした。TACを信じて、この厳選問題要点ノートの内容を頭に詰めることに集中することが、最も効率的な学習方法だと思います。



米国税務のスペシャリストを目指して

丸山 敏 さん

2019年 6月 EA試験合格

- ・ Part1 (2018年12月) / 1回目
- ・ Part2 (2019年 2月) / 1回目
- ・ Part3 (2019年 6月) / 1回目

1983年7月生まれ
慶應義塾大学卒業
証券関連会社勤務

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

以前は英語を使う仕事に携わっていたのですが、転職を機に英語を使う機会が減少してしまったので、英語を忘れないようにするためにもチャレンジすることにしました。
また、BATIC®や日商簿記2級の勉強をしたこともあるので、それらの知識を生かすことができるのではないかと考えたことも学習を始めた理由の一つです。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級、BATIC® アカウンティングマネージャーレベル
英語知識：TOEIC® L&R TEST 840点

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

他の予備校も検討しましたが、TACの教材の方が解説がより詳しく記載されており、自分の学習スタイルに合っていると思ったからです。

Q4. TACの講座でよかったところ

担当の内田先生が、講義内で重要な部分とそうでないところの強弱を明確に示してくれたので、メリハリをつけて学習することができました。
講義・教材ともに膨大な試験範囲をコンパクトにまとめられており、出題頻度が高い論点はしっかりと解説されていたので、短期間で合格レベルに達することができました。
米国税務に関する基礎知識がなくても、TACの教材だけで十分に合格できると思います。
毎朝始業前に1時間を取って講義を聴くことが多かったのですが、内田先生の熱意ある講義に毎回元気をもらっていました。

Q5. 合格までの学習期間は？

トータルでは9ヶ月くらいですが、途中、繁忙期で2ヶ月程勉強を休止した期間がありましたので、実質は7ヶ月程度です。

Q6. 合格までの学習法

本科生コースで学習したのですが、基本部分となるCPAのTAXの講義を一気に聴きました。そのうえで、CPAの厳選問題集480題を解きながら、EAのPart 1の講義の聴講を開始しました。
EAの講義を聴き終えたら、厳選問題要点ノートの問題に取り組み、覚えるくらい繰り返しました。
全問ポイント日本語解説集の問題は、AランクとBランクの問題だけを1回転だけしましたが、Cランクの問題は手を付けませんでした。
オンライン演習の問題は、PART 1とPART 2では、試験の1週間程前に、本試験のコンピュータ操作と時間配分の確認の意味で50題解答しましたが、1時間程度で解答し終わり正答率が75~80%程だったことから、本試験でも十分対応できると思いました。
PART 3は倫理的な内容が多く、PART 1・PART 2のように数字に関連する出題が少ないことから、問題の意図を理解しづらい問題が多いように感じました。
試験問題の文章も長く、専門用語等に慣れる必要があると思いましたが、PART3の学習ではオンライン演習の問題も500題程解きました。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

受講生情報サイトのマニュアルを利用することによって、PTIN申請からEA登録まですべて滞りなく行うことができました。EAの登録は1ヶ月程度で完了し、登録証が送られてきました。
試験会場のプロメトリックセンターは他の試験も取り扱っていることから、休日は予約がとりづらいように感じましたので、私はすべてのパートで試験1か月前に試験予約をしました。
あらかじめ試験日を決めることで、計画的に試験対策を進めることができると思います。
また、試験会場は空調（特に冷房）が強いので、温度調節がし易い服装で試験会場に入室するとよいと思います。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

試験時間は3時間半ありますので、自分のスタイルに合ったタイムマネジメントをするのが良いと思います。
私の場合は、最初の1時間で50問を解答し、休憩を15分程取ってから残り時間で50問の解答と見直しをしました。
試験時間の使い方は個人で異なると思いますので、本試験のシミュレーションとしてオンライン演習を活用すると効果的だと思います。



体験記タイトル

杉山 陽祐 さん

2019年 6月 EA試験合格

- ・ Part1 (2018年 6月) / 1回目
- ・ Part2 (2019年 6月) / 1回目
- ・ Part3 (2018年12月) / 1回目

フィリピンにて日系の海外進出支援コンサルティング会社勤務

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

日々クライアントに対して税務に関するアドバイザリー業務を行っている中で、体系的に税務の知識を身に付けたかったためです。普段はフィリピンの税務コンサルティングを行っておりますが、フィリピンの税務がアメリカの税務と類似しているためアメリカ税務の整理が日々の業務にも役立つと考えました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

日系の海外進出支援コンサルティング会社のフィリピン事務所にて勤務しているので、日常的に英語は使っています。また、USCPAのライセンスを保有しています。

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

EAの受験支援を受けられる予備校の講座を探していたところ、TACがEA講座を開講していることを知ったためTACに決めました。社会人になったばかりのころ、簿記の講座を受講していましたので、またTACにお世話になろうと思いました。

Q4. TACの講座でよかったところ

講師および教材が非常に優れているところです。EA試験を徹底的に分析した上で、合格に必要なエッセンスだけを必要十分にカバーし、それを丁寧に解説してあるところはさすがだと思いました。

Q5. 合格までの学習期間は？

受講開始から1年程度です。普段はフィリピンに住んでいるため、日本への出張のタイミングに合わせて東京もしくは大阪で試験を受けていました。

Q6. 合格までの学習法

TACのEA厳選問題要点ノート（以下、テキスト）のみ使用しました。DVDの視聴→講師の発言内容をテキストにメモ→各論点を自分の言葉で説明できるまでテキストを読み込む→テキストの問題演習→間違えた問題の分析→テキストへのメモ書きを追加→テキストの問題演習…の繰り返しを行い、各分野の論点を一つずつ整理、定着させていきました。これは各科目共通で、教材はTACのテキストのみを使い、GLEIMのオンライン演習や補助レジュメの問題演習も行っておりません。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

フィリピンに住んでいるため、受験手続において必要なPTINは現地のアメリカ大使館に出向いて取得しました。受験の予約はPrometricのサイトから行っていくのですが、サイト上でアカウント作成がうまくできず、Prometricに電話をしても解決せず困り果ててしまいました。その時にTACの相談窓口にもメールしたところ、すぐに返事を頂け、一生懸命親身になって原因を調査頂き、適切なアドバイスを頂いたお陰で、何とかアカウントの作成および受験予約を行うことができました。これには本当に感謝しかありません。TACに申し込んで本当に良かったと思った瞬間の一つでした。USCPAの試験の時にも、試験会場はプロメトリックでしたので試験会場で特に困ったことはなく、試験会場のスタッフの方は慣れているので安心でした。試験前に軽くテキストを見直したかったのですが、試験会場に着いてすぐに試験室に入るよう促されたため全くテキストを読み返すことはできませんでした。直前にテキストを見直したい方は、試験会場に入る前に済ませた方がよいと思います。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

TACは資格試験の専門学校というだけあって、EA試験についてよく研究されていると感じます。合格に必要なエッセンスだけをテキスト1冊にまとめてあるところは本当に有難かったです。仕事の合間に細切れの時間をかき集めて勉強しなければならない社会人にとっては、論点をまとめるだけで膨大な作業となりますが、その作業を省くことができるだけでもTACにお世話になる価値はあります。TACのテキストは思ったより薄いので受験生としては本当にこれだけで合格できるのか不安になり、あれもこれも手を付けたくなる気持ちはよく分かりますが、ここは資格試験のプロ集団であるTACを信じてください。テキストの問題と全く同じ問題は出題されませんが、出題される論点自体はTACのテキストで示されている論点と同じです。同じ論点をテキストとは違う角度から問い直しているだけの問題が多いので、TACのテキストとDVDの中で講師が強調した箇所をきちんと自分の中で整理できていれば合格できます。テキストで全く触れていない論点やテキストで触れてはいたものの、そこまで細かくは触れていなかった等の問題もある程度出題され、本番中に焦った場面もありましたが、TACのテキストで強調されていない論点なのであれば、恐らく他の多くの受験生も把握していない論点だと思いますので、結果的に可否には影響がなかったと思います。試験中に一番自信がなかったPart 2では結果的に3科目中一番高得点で合格できたことがそれを裏付けています。



短期集中で一気に合格へ！

佐藤 泉美 さん

2019年 2月 EA試験合格

- ・ Part1 (2018年12月) / 2回目
- ・ Part2 (2019年 1月) / 1回目
- ・ Part3 (2019年 2月) / 1回目

University of Southern California 卒業
TOEIC L&R TEST 985点

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

以前、米国に住んでいたことがあり、EAという資格の存在自体は知っていたのですが、帰国後に、仕事で米国に進出している日系企業の給与計算業務等を行うようになり、関係する税務の知識を得るために、受験することを決意しました。

また、自身の業務内容に関係するため、勉強内容も理解し易いはずだと思いました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計は、大学で基礎的な科目を勉強し、以前CPAを受験した時に、追加でオンラインコースでも勉強したことがあります。

普段から、仕事上の会話やE-mail等で英語を使っています。

米国にいた時には、3年間程、会計事務所でも税務の仕事に携わっていました。

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

日本に帰ってから、経理の仕事に就こうとした時に、簿記の資格を持っていなかったため、ハローワークを通じて、TACが実施している簿記3級と2級の講義を受けました。

その時に、とても分かり易いと感じたので、EAもTACで勉強しようと思いました。

Q4. TACの講座でよかったところ

論点になるべきところをコンパクトにまとめてあるので、ポイントが非常に理解しやすかったです。独学だとポイントを絞るのがむずかしいので、効率的に学習することが難しいと思いました。

Q5. 合格までの学習期間は？

勉強を開始したのが2018年の10月で、2019年の2月に最後の科目に合格することができたので、合格まで実質5ヶ月くらいです。

Q6. 合格までの学習法

まずは各パートのDVDを1回視聴してから、対応する厳選問題を解きました。その後で、オンラインの問題演習を、正答率が80%になるまで繰り返しました。パートナーシップの内容は、今まで関わりがなかったので、丁寧に学習しました。年金関連の分野は数字が多いので少し面倒でした(笑)

家で他のことをしている時も、DVDをBGMのように聞いていて、未だに講師の内田先生の声が耳に残っています(笑)

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

米国の社会保障番号(Social Security Number)を持っていたのですが、米国大使館で公証を受けるときに、パスポートとは別のページにコピーして公証を受けたら、出願時に受け入れてもらえませんでした。次に同じページにコピーして公証を受けたら受け入れてもらったのですが、その際は、大使館の人と渡り合う場面がありました。

Q8. 勉強したことが仕事に役立っていることは

勉強した内容は、駐在員の方の給与計算にも役立っていますし、年金関係のことが沢山出てくるようになったので、その点でもすごく役立っています。

Q9. これから合格を目指す方へのアドバイス

もらったテキストだけを繰り返せば十分に合格することができます。試験では、割と細かい数字が出てきますが、そのような箇所については、直前の一夜漬けがとても有効でした。

トランプ大統領による税制改定が行われたために、早めに合格しないと、数値等、出題されてくる内容が大幅に変わってしまうかもしれないと思うと、勉強に集中することができましたが、ある程度まとまった時間に集中して勉強することも大切だと思います。



米国税制知識、国際税務知識の統一化を図るために受験

安倍 龍司 さん

2018年 8月 EA試験合格

- ・ Part1 (2018年 6月 / 1回目)
- ・ Part2 (2018年 7月 / 1回目)
- ・ Part3 (2018年 8月 / 1回目)

外資系企業に勤務

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

これまで外資系企業で国際税務、移転価格税制などの税務実務経験があったが、統一された体系だったしかりとした知識がなかった。トランプ政権による大幅な税制改革、また、今後自身の税務実務を効果的効率的に行うにはしっかりと国際税務知識が必要と考え受験を決意しました。EAという資格は、USCMAもTACで受講をしていましたので、その際に知りました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語力：

国際系会計資格の合格、英文契約書翻訳、invoice作成、明細書作成、海外本社とのメールのやり取りなどビジネス上での使用。ビデオカンファレンス出席、月次パフォーマンスの説明など実践で鍛えた。

会計知識：

USCMA (米国公認管理会計士)、日商簿記1級・2級・3級、全経簿記能力検定 上級、BATIC, Controller Level, ICAEW IFRS Certificate (国際財務報告基準検定) など合格。

実務でも米国会計基準、IFRS、日本会計基準を使用し知識は十分にあると感じております。

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

以前から内田先生の税務講義は優れていると伺っていましたし、会計系の資格はTACと決めていましたので、EAも迷わずTACを選びました。

Q4. TACの講座でよかったところ

講師：

内田先生は試験の得点につながる重要なところに力を入れて講義されているところが印象的だった。また、先生ご自身の実務ベースでの話も、非常に参考になる。

教材：

「直前対策まとめ」はIndividualとBusinessesの教科書の要点をコンパクトにまとめ、非常によく作り込まれていると思う。実務でも使えるバイブルになるレベル。各Partの厳選問題要点ノートで紹介されていた問題は、本試験対策に非常に効果的。出題される個所を的確にまとめてくれているため、これをしっかり理解できれば本試験でも良い結果が出ると思います。

カリキュラム：

通信制で受講したので自分の好きなときに講義DVDをみて学習できた。自分のペースで学習出来た。

Q5.合格までの学習期間は？

2018年5月上旬から8月下旬まで (3.5ヶ月くらい)

Q6. 合格までの学習法

サラリーマンですので平日は十分な学習時間がとれない。通勤電車の中でTACの教材の読み込み、スマホでGLEIMにログインして問題を解くのを繰り返した。休日はファーストフード店や図書館で講義DVDをみたりGLEIMにログインして問題を解いた。

Part1 - Individuals、Part 2 - Businesses、Part 3 - Representation, Practices and Proceduresの順で学習。Part1で基礎を固めればPart2の理解は早い。

Part3はPart1、Part2とは別世界のように感じ、法律関連の知識をより深く求められるためUSCPAレベルの税務知識では全く対応できない。GLEIMのテキストと厳選問題集で、よりしっかりと学習が必要のように思う。Part1とPart2に関しては、TACのテキストと厳選問題集だけでも対応できるかもしれない。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続：

パスポート公証時、米国大使館に入る際には厳しい入館チェックがある。アクセサリなどの金属系、ノートパソコンなどはなるべく持っていかずに身軽にしたほうがよい。5月はIRSが忙しくない時期なのかもしれないがPTIN取得の手続きは速やかに進んで申請から1日後に取得することができた。

受験時のエピソード：

受験時間は3科目ともに3時間半でしたが、時間が余った。Part 1 - Individuals、Part 2 - Businessesはとても簡単な印象で余った時間で十分な見直しができる。Part 3 - Representation, Practices and ProceduresはBusiness Level以上の英語力がないと不可能な印象。Part1とPart2は教材の範囲で十分にカバーできると思いますが、Part3は当方の場合、教材でカバーされていない未知の範囲が50%超えたので焦りました。

試験時間中はトイレ休憩時間もあり、試験途中でも試験室から出て落ち着くことができた。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

受験の際には英語力が必要になるのは当然と思いますが、Part3に関しましては速力と理解力が必要になるかと思います。

また最近GLEIMの演習問題の画面もEA本試験の画面と殆ど同じデザインになったのでGLEIMの演習問題を繰り返すことで本試験の環境になれることができると思います。

合格後のライセンスを維持するための継続教育は非常に簡単で苦ではない。

CPE creditを取得するためのテストを通過したら、翌日にはIRSのweb siteに反映されている。



TACと自分を信じて、合格を手に入れた！

チン ウシュウ さん

2018年 8月 EA試験合格

- ・ Part1 (2017年11月) / 3回目
- ・ Part2 (2018年 7月) / 1回目
- ・ Part3 (2018年 8月) / 1回目

税理士法人に勤務

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

2017年より税理士法人で国際税務の業務に従事し始めたため、その勉強の一環として、また、普段の仕事では米国税務に触れることがあり、それに係る理解を深めたいと思い、EA試験にチャレンジしよう決めました。

また、もともと受験はしていませんでしたが、USCPAを勉強していましたので、そのリベンジとして、EA試験にチャレンジすることを決意しました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：TACのUSCPA講座に通ったことがある。

英語知識：TOEIC®L&R TEST 930点

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

米国会計について勉強した際にはTACのUSCPA講座に通っていましたし、会社のおすすめの学校でもありますので、TAC以外での受講は考えていませんでした。

Q4. TACの講座でよかったところ

何と言っても、「直前対策まとめ」が非常に有効でした。

私はもともとUSCPAの講座に通っていたので、この「直前対策まとめ」を非常に重宝していました。

要点をよくまとめていて、復習の際に要点が探しやすいのです。

また、GLEIMの教材は非常に試験に近い英語の表現を使用していますので、非常に助かりました。

教材を読まずに、直接問題を解く方がいるようですが、やはりせっかく教材を購入しましたので、一遍だけでもしっかりと読んだほうがよい発見ができると思います。

Q5. 合格までの学習期間は？

講座の申込は2017年8月に行ったのですが、学習を始めたのは2017年9月くらいからでしたので、合格までは約11か月でした。

Q6. 合格までの学習法

三科目共通の学習法です。

まず教科書をひと通り読みました。「deposition」、「rebuttal」などの表現は問題集から勉強してもよいのですが、大体どういったシチュエーションの中にこのような言葉が出るのかを教科書で確認したほうが非常に役立つと思いました。

それに、厳選問題集を二、三回解きました。その名の通り、「厳選」ですので、試験に出る可能性も非常に高いですし、各科目の代表的な問題ですので、一巡、二巡、さらに三巡する価値があると思います。

最後に、GLEIMの問題ソフトを全問解いてみました。

そこまでやる必要はないと思いますが、GLEIMテキスト問題集はやや物足りない感があり、とりあえず問題ソフト全問を一巡しました。

気になる問題にマークを付けて、三科目で合計500問ほどのマーク付きの問題を重点的に復習しました。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

一番印象に残っているのが、一科目目に合格した後、米国税制が改正され、ヒヤッとしていました。AMTが廃止になるなど、大きな改正が行われており、自分が勉強したものが今後役に立つか不安がありました。

その後、一心不乱に法人税と三科目目を復習して、なんとか全科目合格にたどり着けました。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

① 問題を解くのに重点を置くことが悪いわけではありませんが、可能であれば教科書も一通り読むことをおすすめします。

② 問題集の問題を何度も読むことです。同じ趣旨の問題であっても、英語の表現が異なる場合には、困惑しないように日々の練習が必要です。



グローバル社会の武器として！

安永 聖観 さん

2017年12月 EA試験合格

- ・ Part1 (2017年 9月) / 2回目)
- ・ Part2 (2017年 9月) / 1回目)
- ・ Part3 (2017年12月) / 1回目)

1979年生まれ
長崎大学経済学部 卒業
安永聖観公認会計士・米国税理士事務所
監査法人、税理士法人を得て、福岡県福岡市にて現在独立開業

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

監査法人勤務時代に何かスキルを身につけようと思い、軽い気持ちで他校の教材でUSCPAの勉強を始めました。
ただ仕事が忙しく、思うように勉強時間を確保できずUSCPAの科目合格が期限切れ。悔しかったですが、気を取り直し、EAの短期合格を目指しました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：USCPA一部科目合格、公認会計士
英語知識：TOEIC®L&R TEST 700点台

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

EA講座のカリキュラムがしっかりしているところです。厳選問題要点ノートには重要ポイントがまとまっており、大変重宝いたしました。
受講料も他校と比べてリーズナブルなところも良かったです。

Q4. TACの講座でよかったところ

質問体制がしっかりしていました。科目毎の私の細かい質問にも丁寧にご回答頂きました。大変助かりました。

Q5. 合格までの学習期間は？

EAのみなら半年程度。USCPA勉強開始時から含めると合計3年半ほど費やしています。

Q6. 合格までの学習法

USCPA全科目をEA開始前に学習済みでしたので、短期合格を目指しました。
DVD授業の音声をスマートフォンに録音して、繰り返し音声学習をしました。
厳選問題要点ノートを2～3回転は行い、しっかりと暗記するようにしました。GLEIMテキスト問題集はA・B問題を2～3回転は行い、同じ問題は二度と間違えないようなレベルまで精度を上げました。
GLEIM Onlineについては本番前の予行演習として受けました。Part1の本番前にGleim Onlineで予行演習を行い、点数が悪かった1回目は不合格、点数が良かった2回目は合格しました。
Part2、Part3ではGleim Onlineで複数回予行演習を行い、良い点数が取れる精度まで高め、両Partとも1回目で合格しました。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

USCPAのTAXの前提知識があったため、最初は簡単に合格するだろうと思い、短期合格を目指し、PART1を受験しました。ところが、非常に難しい問題が複数問出題され、混乱し基本的な問題も落とし不合格でした。
PART1の2週間後にPART2の受験を既に申し込んでいたため、心が折れそうになりましたが、気を取り直し、2週間穴がないようにしっかり勉強し、無事にPART2は合格しました。
その2週間後にPART1を再チャレンジ。漏れがないようにしっかりと準備、無事に合格しました。
PART3については、仕事のため受験時間を十分に確保できなかったため、3ヶ月後の12月に受験。初見でよくわからない問題が複数問出題されましたが、焦らないように心を落ち着かせるようにしました。よく見るとある問題に他の問題の解答が記載されているということがあり、こういう問題は絶対取りこぼさないようにし、無事に合格しました。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

この試験の日本人受験者層は一定レベルの知識・経験を持たれている優秀な方ばかりであり、簡単な試験ではないと思います。
但し、しっかりと準備すれば合格する試験です。
TOEICで高得点獲得したとしても、事務所名や名刺にはわざわざ点数を書く人はいません。一方米国税理士の場合、事務所名、名刺に入れることができ、強力な英語力の証明となります。



TACを信じれば大丈夫です！

A.F さん

2017年12月 EA試験合格

- ・ Part1 (2017年10月) / 1回目
- ・ Part2 (2017年11月) / 1回目
- ・ Part3 (2017年12月) / 1回目

1964年生まれ
一橋大学法学部 1988年卒業
税理士事務所に勤務
その他、宅建の資格を取得

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

現在、税理士として税理士事務所に勤務していますが、前職（銀行）及び現業務の中で、米国税務申告書を見る機会があり、EA試験の勉強を通じて、クライアントに対して、日本税務のみならず、米国税務を専門家の立場からアドバイスができれば良いなと思い、勉強を始めました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：税理士試験合格

英語知識：TOEIC®L&R TEST 960点

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

税理士試験受験時にお世話になり、安心感があったため。

Q4. TACの講座でよかったところ

最初、米国税務は日本の税務と異なるところも多く、最初に配布される米国CPA試験用の日本語テキストで勉強をすることで、EAの試験勉強にソフトランディングすることができたように思います。

Q5. 合格までの学習期間は？

Part1～3ヵ月、Par2～1ヵ月、Part3～2週間

Q6. 合格までの学習法

Part 1 は、初めての米国税務の勉強のため、DVDを視聴したり、USCPAテキストやGleimテキストを見たりしながら、試行錯誤の勉強であったことから、合格までに3ヵ月程度の時間がかかりましたが、Part2以降は、自分なりの勉強ペースをつかめたため、Part2は1ヵ月、Part3は2週間の勉強で合格できました。

自分なりに効率の良かった勉強の進め方としては、EA厳選問題要点ノートの問題・解説を読み、1ユニットが終了する都度、GLEIMコンピュータ演習ソフトのシミュレーション問題（Create a Study Session）を10問程度解くというスタイルで進めていきました。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

・PTIN申請～EA試験の予約は、PTIN（申告書作成番号）を取得することが前提となるため、自宅のパソコンからChromeやMicrosoft EdgeのブラウザからIRSのサイトにアクセスしようとしたところ、画面がうまく表示されず、無駄に1～2ヶ月の時間を過ごしてしまいました。困ってTAC EA講座にメールで相談したところ、Internet Explorer（IE）とIRSのサイトは相性が良いことを教えてもらい、無事IEのブラウザからPTINを取得できたことで、気持ちも勉強に切り替えることができました。

・EA試験～実際の試験は、EA厳選問題要点ノートやGleimのシミュレーション問題に載っていない問題が多く出題されます。Part 1 の試験の途中、初めて見る問題が多く、「これはダメかな」と思いましたが、結果としては合格でした。その経験から、EA厳選問題要点ノートに載っているレベルの問題を確実に解ければ合格できると確信し、Part2試験、Part3試験ともに、途中で分からない問題が出ても焦らず、見たことがある問題を解答できれば合格できると安心して試験を進めることができました。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

税理士試験のときにも感じましたが、TACの教材は視覚的に分かりやすい内容となっており、特にEA厳選問題要点ノートを信じて勉強することで、短期合格は可能です。

EA試験は、日本の税理士試験とは違い、勉強すれば必ず合格できる試験ですので、興味ある方は積極的にトライして頂ければと思います。



3年越しの夢が叶いました！

幸左 絵美 さん

2017年11月 EA試験合格

- ・ Part1 (2017年 6月) / 2回目
- ・ Part2 (2017年11月) / 1回目
- ・ Part3 (2017年 5月) / 1回目

1989年生まれ
東京大学 2015年卒業
勤務先：投資銀行
宅建、行政書士、証券アナリスト 1次試験合格（全てTACの書籍を利用）
EA合格後、2021年にUSCMAに合格

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

3年前にアメリカに行った際に、EAの資格を知り独学で勉強を始めましたが、当時は会計の知識もなく、内容が頭に入って来ずに挫折しました。
EAは試験範囲がUSCPAのTAXの講座と被っていたため、USCPAの勉強にもなりますし、より短期間で資格が取得できるのはありがたいと思い勉強しました。
現在はUSCPA講座を受講しています。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：証券アナリスト試験 1次試験合格、業務で会計知識は多少利用していました。
英語知識：TOEIC®950

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

これまでに証券アナリスト試験、行政書士試験、宅建試験などでTACの教材を購入しており、内容が要点が絞られていて非常にわかりやすかったためです。
法律や数値の説明のみでなく、問題の例が並列して記載されているので、内容がよく頭に入りました。

Q4. TACの講座でよかったところ

まとめの冊子が要点を絞っており、非常にわかりやすかった点です。
1ページに講義で使われる2枚のスライドが印刷されており、文字も大きく、見直すのが快適でした。
冊子も厚くないため、途中で勉強を挫折せずに臨めました。

Q5. 合格までの学習期間は？

Part1、2はそれぞれ4日間、Part3は分量が少なく2日間で終了しました。
私は合格のボーダーラインギリギリを狙いましたが、（Part1では一度失敗しました）各科目2週間もあれば合格安全圏まで持っていけるのではないかと思います。

Q6. 合格までの学習法

Part1、2、3とも、講座まとめの冊子で概要を掴んだ後にGleimの問題集を解きました。
試験にはGleimに載っていない項目についての出題はありましたが、合格点を取るという目的では十分な範囲がカバーされていました。
多くの問題を解くよりも、まとめの冊子に載っていた項目を完璧にすることが重要だと思います。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

勉強が仕上がってから受験しようとするとなかなか予約が取れないので、あらかじめ予約することをお勧めします。
特に、分量の多いPart2は、腰を据えてかからないと私のようにグダグダと受験を引き伸ばしてしまいますので、試験を予約しておき、受験日に合わせて勉強の方が集中して勉強できます。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

独学は時間もかかりますし、会計の知識がない場合はそもそもどういった内容が試験範囲なのかも分からずに、学習の初期段階でつまづく恐れがあります。
私も3年前にGleimの問題集を購入して独学で学習を開始したものの、分量が多く解説が頭に入らずに一度挫折していました。
特に英文会計の学習が初めての方はTACの講座でぜひ合格を勝ち取っていただきたいと思います。



達成感と自信が付き、人生の糧になります

鵜澤 摩美 さん

2017年 1月 EA試験合格

- ・ Part1 (2016年 8月)
- ・ Part2 (2016年10月)
- ・ Part3 (2017年 1月)

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

自分に自信をつけるため、USCPA再チャレンジの突破口として。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級、USCPA学習経験有り

英語知識：海外留学3年

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

他校でUSCPAを学習中、勉強仲間からTACの講師や教材のテキスト、サポートが素晴らしい事を知り、次に資格を取得するならTACを受講しよう決めていました。

Q4. TACの講座でよかったところ

内田講師の講義はとても丁寧で分かりやすい説明でした。毎回講義は興味深く、前のめりになって視聴しあっという間に終了してしまう感じでした。

サポート体制が万全で、質問も親切丁寧に応えてくださりとても感謝しております。

Q5. 合格までの学習期間は？

9か月

Q6. 合格までの学習法

まずは、USCPAのTAX講義から始めました。

Part1：DVD視聴後、パワーポイントの厳選問題要点ノートに掲載されている問題を解説を読みながら数回解いた後、Gleimテキスト全問（C問題含む）を数回解き、日本語解説集も読み込みました。初めての受験で要領が分からなかったため、PC操作等に慣れる為にもGleim Online Examモードで100問解きました。試験直前は厳選問題要点ノートを自分でカスタマイズしたもの（日本語解説集を必要な所を切り貼り）を読み込みました。

Part2：Part1と同じ学習方法ですが、範囲が広い為Gleimテキストで全問（C問題含む）は解きましたが、Onlineは使いませんでした。試験直前はPart1同様、厳選問題要点ノートを自分でカスタマイズしたものを読み込みました。

Part3：こちらもPart2と同じ学習方法で試験に臨みましたが、104点という1点足らず不合格が連続してしまった為、小泉講師に相談したところ、USCPA TAXテキストの該当論点（Vol.1 13章とVol.2 8章）を

見直した方がよいというアドバイスを頂き、最後の受験の時はDVDを何度も視聴しGleim Online Study モード489問全問解き、Online問題を解く際は一問毎に正解・不正解全ての選択肢の英文解説を読み、なぜその答えが正しいか、間違っているのかを考えながら丁寧に問題を解きました。

再受験期間が短いのも敗因だと感じ、最後の受験は学習期間を少し長めに取りました。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

実際に試験を受けた感想としまして、Part1とPart2は厳選問題要点ノートをしっかり読み込んで基礎知識を固めれば合格できると感じました。両Part共、実際の試験では計算問題が思っていたよりも少なく戸惑いました。感覚的には全体の1割程です。

Part3では2度目の受験の際には、前回と同じ問題が2割程出ました。不合格になった時の問題を思い出して、調べたり講師に質問したりと対策を打ち、功を奏しましたが、前回よりも更に難しく感じ、2択までは絞れるが、そのどちらも正解と取れる様な際どい選択肢が多かった為、結果を待つ間は不安で緊張しました。合格が分かった瞬間はとても嬉しかったです。

余談ですが、各Part合格した時は試験中に休憩を入れましたが、不合格だった回は休憩を入れませんでした。試験時間が3時間半と長いので、一旦頭をリフレッシュさせた方が、私には良かったみたいです。

Part3初回受験の際、PCブースの前に座り一番初めに名前を確認する画面で緊張のあまり、誤ってNoのボタンを押してしまい、試験を始める前に強制終了というトラブルになってしまいました。プロメトリックセンターのスタッフの方の対処のおかげで、何とか受験する事ができました。必要ではありませんが、毎回受験時にPTINをプリントアウトしたものを持参していました。この様なトラブルの際、PTINが必要だった為、持参しておいて良かったです。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

TACの講師や教材は本当に素晴らしいです。勉強の仕方に迷った時、不安に思う事などを相談し、どんなに些細な質問でも親身になってアドバイスを下さり、最終合格までサポートして頂きました。受験勉強中、思い悩む事があれば積極的に相談してみてください。

そしてTACを信じ、自分を信じて諦めずに勉強を続ければ結果はついてきます。

私が合格できたので、皆さんも合格できると思います！

皆さまの合格を心よりお祈り致しております。



学生時代にTACで強い武器を得た

田中 佑樹 さん

2016年 9月 EA試験合格

- ・ Part1 (2015年10月) / 1回目
- ・ Part2 (2016年 9月) / 1回目
- ・ Part3 (2016年 9月) / 1回目

1996年生まれ
EA合格当時は、関西大学に在学中

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

私は警察官志望なのですが、父親が日本の税理士をしているため、大学2、3年生時は、税理士試験の勉強に励んでいました。
そして、英語が好きということもあり、会計税務と英語を掛け合わせた米国税理士というものに魅力を感じたことが勉強を始めたきっかけです。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：税理士試験財務諸表論・簿記論をEA合格時に学習、日商簿記2級
英語知識：TOEIC®L&R TEST 735点

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

米国税理士の講座を扱っていただけるのはTACさんだけだったのと、受講生の合格体験談を読み、自分でも合格できるのではないかと思ったからです。

Q4. TACの講座でよかったところ

最初の教材は米国公認会計士用のものを使うのですが、これで米国税務の基礎知識を学ぶことができ、問題演習も豊富で知識の定着には時間がかかりませんでした。
そして、基礎知識の上に米国税理士試験に出る細かい知識は、Gleimの教材を使い、その授業は演習をしながら進めていくスタイルで飽きずに楽しく学習できました。

Q5. 合格までの学習期間は？

大学2年生の6月から受講を開始して、その年の10月にPart1に合格しました。その後、日本の税理士試験の勉強を開始しました。そして翌年の8月の日本の税理士試験を終えたため、Part2、3の勉強に取り掛かり、9月に合格しました。

Q6. 合格までの学習法

講師の先生の言われる通りに学習を進めていくことだと思います。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

一番印象に残っているのが、受験手続きの際はすべて英語で行うことです。
アメリカと日本でのやり取りですので、本当に手続きがきちんとできているのかと心配になりましたが、そこもTACさんがしっかりサポートしてくれるので助かりました。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

まだ学生ではありますが、米国税理士を取得すれば、将来への様々な選択肢を持つことができると思います。
私もこの資格を取得したきっかけで、アメリカへの留学を決意しました。
学習してみる価値は大いにあると思います。



選択肢はTAC一択

戸田 文雄 さん

2016年10月 EA試験合格

- ・ Part1 (2016年 7月) / 1回目
- ・ Part2 (2016年 9月) / 1回目
- ・ Part3 (2016年10月) / 2回目

筑波大学1982年卒業

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

業務で英語を使わなくなって久しく、語学力低下を痛感していたところ、業務に役立つ知識も併せて学習できるUSCPAやEA、USCMAの存在を知りました。その中で、最もボリュームが少なく、現在の業務との関連度が高いEAから始めることにしました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記3級

英語知識：TOEIC®L&R TEST：625点

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

日本語での講義があることに加え、USCPAとの連動性や大手の安心感があったため。

Q4. TACの講座でよかったところ

厳選問題集、直前対策まとめなど、出題頻度の高い論点がコンパクトにまとめられており、効率的な学習ができました。チャーミングな内田先生の歯切れの良い講義も大変解りやすく、音声ダウンロードして通勤やジョギング中に繰り返し聞くことで、知識の定着が進みました。

また、学習サポートページの充実度も素晴らしく、PTIN取得からEA登録、更新手続きまで、あらゆる手続きが詳しく説明されている点は大変ありがたいものでした。

Q5. 合格までの学習期間は？

6か月半。(4月～10月中旬)

4月からUSCPAのTAX講義を受講し、6月から10月中旬までは自習。

毎日の通勤中の学習に加え、週末は近郊の図書館までジョギングし、4～6時間学習しました。

Q6. 合格までの学習法

まずUSCPA TAXの知識を定着させた上で、EAの講義に取り組むこととしました。

4月、5月のUSCPA TAXの教室講義では、講義前にテキストで予習し講義後にはテキストと問題集で復習するようにしていました。その後6月からはEA講義に取り組みました。

DVDが自宅に到着してからは、1.4倍速でもう一度見るとともに、音声データ化して2～3回聞きました。

その後、厳選問題集とGLEIM問題集を全問2回転した後、不正解問題をつぶしていきました。

PART1、2の試験前にはGLEIMオンライン模擬試験を2回ずつ行いました。

PART3は模擬試験を1回行った後に受験したのですが不合格となり、その後GLEIMオンラインのSTUDYモードで全問に取り組み、不正解がなくなるまでEXAMを繰り返しました。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

7月初旬、模擬試験ではまだ65点程度でしたが、予行演習のつもりでPART1を受験しました。

オバマケア関連など日本語テキストに記載のない範囲から多数出題されており、「ABランク問題だけでは不十分じゃないか」と思っていたところ、後日合格通知が届き驚きました。

PART2受験時も、模擬試験70点程度の段階で臨み、やはりテキストに無い論点が多かったものの、すんなり合格。

内田先生の仰る「Cランク問題はやる必要がない」というのは真実なのだと思いますし、PART3も模擬試験70点のレベルでチャレンジしたところ、今度は不合格でした。

気を取り直してGLEIMオンラインを完全制覇した後、2度目の試験に臨みましたが、やはり全く見たことのない用語や論点が多数あり、途方に暮れてしまいました。

試験後、出来は6割以下かもと溜息をついていたところ、不思議なことに合格でした。

内田先生もPART3では、講義の最後にぼろっと「決して舐めてかからないように」と仰っていますが、私のように英語が不得手な者にとってPART3は難関です。

GLEIM教材だけでは不十分と思いますが、かといって関連法規やIRSのホームページを読み尽すのも現実的でない。

ただ、不合格の場合でも24時間以降に再受験が可能で、2割程度同じ問題が出題されますので、初回受験時に理解できなかった用語を覚えておくと対策が打てます。

(試験会場で配布のメモ用紙は回収されますので、記憶する必要があります)

また、試験中全く理解できない論点があった場合、後の問題で同じ論点が出てきたときに、2つの問題から正解を推測できることがあります。

2回目は、この方法で数問稼げたので、それが合格に繋がったのではと思っています。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

EA講座は米国の税法を学べる貴重な講座です。

ここで得た知識は、必ず業務遂行能力の差別化に繋がると思います。

また、EA試験は、USCPAの登竜門としても最適ではないかと思います。

USCPAの学習量の目安が把握できますし、学習のやり方も分かります。

短期間で確実に合格できるので、大変おすすめの講座です。



英語力の向上と国際税務へのチャレンジ

左海 康道 さん

2016年 9月 EA試験合格

- ・ Part1 (2016年 9月 / 1回目)
- ・ Part2 (2016年 9月 / 1回目)
- ・ Part3 (2016年 9月 / 1回目)

早稲田大学政治経済学部1994年卒業
 左海康道税理士事務所
 税理士、公認会計士試験合格者

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

ポーダレスな国際社会の進展や日本の経済の縮小傾向を踏まえると、英語圏の市場ニーズを看過することはできない状況にあり、英語力の向上と国際税務の知識はこれからの税理士には不可欠であると考えられたため。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記1級合格、税理士試験合格、公認会計士試験合格

英語知識：実用英語技能検定1級

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

税理士試験や公認会計士試験での合格実績に裏付けされた、独学ではなかなか困難であると想定される短期合格のためのノウハウを得るためです。

Q4. TACの講座でよかったところ

どこまで何をどの程度までやればいいのかが明確にされており、自分で色々模索することがありませんでした。結果的に効果的な学習方法を選択することにつながり、合格までの時間短縮を図ることができました。

Q5. 合格までの学習期間は？

- ・ Part1：90時間
- ・ Part2：100時間
- ・ Part3：50時間

Part1、Part3、Part2の順序で受験をしましたが、Part1のときにきちんと学習をしておくことでEA試験のベースができるため、その後のPartは比較的スムーズに進捗することができるのではないのでしょうか。

Q6. 合格までの学習法

厳選問題要点ノートを1回転し、DVDの講義を視聴しました。
 その後、EA対策補助レジュメのA、Bランク問題と厳選問題要点ノート掲載問題をGLEIMテキスト問題集で演習しました。
 講師のアドバイスを受け、Cランクの問題は一切やりませんでした。
 私は、Online演習ソフトの模擬試験は、Part1のみで十分だと思ったので他のPartではやりませんでした。
 そして、EA対策補助レジュメはポイント解説がよくまとまっており、試験前に最後にEA対策レジュメのポイントだけを見直すことで短期合格することができました。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

PTIN（申告書作成者番号）の取得には1か月ほどかかるものと思っていましたが、私の場合、IRS（内国歳入庁）に申請をしてから1週間後には登録通知のE-mailが届き、少し驚きました。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

私にとっては、コンピュータ試験は初めての経験でしたし、英語の試験自体も学生時代以来でした。最初にGLEIMのOnline演習ソフトでランダム100問の模擬試験をやったときは、膨大な英文の問題量に少し圧倒されたものです。
 ただ、EAの試験は落とすための試験ではなく、IRSが求めている必要な知識を得てもらうための試験であるということが理解できれば、日本の試験のように難問奇問が問われるようなことはなく、一つ一つ基本的なことをマスターすることが合格への近道であることがわかります。



選択肢はTAC一択

H.I さん

2016年 7月 EA試験合格

- ・ Part1 (2015年11月) / 1回目
- ・ Part2 (2016年 6月) / 1回目
- ・ Part3 (2015年 6月) / 1回目

慶応義塾大学 2000年卒業
卸売業経理部に所属

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

非英語圏赴任中に低下した英語力を回復させる為またTAC U.S.CPA講座申し込み後、教材を放置したまま5年が経過してしまいました。
そこでU.S.CPA再チャレンジのためのきっかけとしてEAの学習をはじめました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：税理士簿記論、日商簿記1級
英語知識：TOEIC®L&R TEST：820点

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

税理士講座、公認内部監査人(CIA)講座、U.S.CPA講座でお世話になり、実績に安心感があったこと、また、USCPA講座との連動性を重視してTACにしました。

Q4. TACの講座でよかったところ

特に厳選問題集が秀逸で、教材がPower Pointで作成されており見やすく、網羅的でありながらコンパクトにまとまっていて、これだけで十分なくらいでした。

Q5.合格までの学習期間は？

2015年春に子供が生まれた為、自宅での学習時間の確保は難しく、通勤電車の中で1日1時間、学習するのが目標でした。その結果合格まで1年かかってしまいました。

Q6. 合格までの学習法

iPhoneに講義DVDをインストールし、1.2倍速で視聴。
その後TAC U.S.CPA問題集を1回解き、ポイントを内田講師特製の直前対策まとめ、或いはEA厳選問題集に転記。そして、EA厳選問題集を1回解いた後、EA演習講義を視聴。
最後にEA厳選問題集のA,Bランクを2,3回転して受験しました。
Gleimはパート3では使用しましたが、パート1,2では時間の関係上使用しませんでした。

また、USCPAのREG受験予定から逆算し、REGと関係性の薄いパート3から受験しました。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

PTIN取得から、受験申し込み、資格登録までサポートページがあり、一切不安になることはありませんでした。
私がパート2を受験した時には即時スコアリリースが中断していました(2016年5月~8月中旬)が、サポートページにはしっかりと記載があったのを後になって知りました。
また、受験年度を跨いだのですが、サポートページにて改正点がまとめられており、安心して学習できました。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

3、4月が受験できないのでスケジュールリングにはご注意ください。
また、USCPAの1科目500ドル(日本での受験の場合)に比べると、EAは109ドルで約5分の1と経済的負担が比較的軽いので、状況が許されるのであれば準備不足の状態でも積極的に受験されることをお勧めします。

※上記の受験料は、2016年時点の受験料です。



USCPA+α 税務をさらに掘り下げて

草野 いづみ さん

2015年12月 EA試験合格

- ・ Part1 (2015年10月) / 1回目
- ・ Part2 (2015年12月) / 1回目
- ・ Part3 (2015年12月) / 1回目

1982年生まれ
桜美林大学 文学部 2004年卒業
2015年8月USCPA合格後、EA試験にチャレンジ

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

USCPAを勉強した際に特に税務に興味を持ちました。EA試験にむけて勉強を続けることで特に税務の面での自信をつけ、今後は国際税務の分野で働いてみたいという理由からEAにチャレンジしようと思いました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：USCPA全科目合格直後です。
英語知識：日常会話をする程度です。

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

日商簿記を受験してからUSCPAまで、ずっとTACだったのでTACを選びました。
また、EAの講師もUSCPAのTAXでお世話になった内田先生だったからです。

Q4. TACの講座でよかったところ

USCPAのTAXからの延長で勉強が続けられるようにカリキュラムが組まれている点が勉強しやすかったです。
勉強する内容についても、「USCPAの知識で充当できる部分」、「プラスαの知識が必要な部分」、「実務では重要な部分」などと、分類して説明をしてくださる点が学んだことを整理しながら進めていくのに役立ちました。

Q5. 合格までの学習期間は？

3ヶ月です。
1科目1ヶ月のペースで進めていきました。
2科目目の「BUSINESS」が一番ボリュームがありましたので、勉強期間を少し多めにとりました。

Q6. 合格までの学習法

DVDで一通り全体像を把握しました。
次に、テキストでU.S.CPAにプラスαの部分を中心に学習しました。
その後、Aランク、Bランクに指定された重要な問題のみを2回から3回繰り返し解きました。
そして試験直前は、GLEIMのオンライン演習ソフトで問題を解き、本番に慣れるようにしました。
本番の試験では、練習で見たことのない問題は時間をかけすぎないように進めていきました。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

米国大使館にパスポートの公証を行った際、市民課に並びました。
「IRSの試験、米国の連邦の試験を受験するのだな」という実感が湧いたことを覚えています。
また、試験終了時にプロメトリックの方から受け取る終了証に結果が載っているのので、即日結果がわかるところが、よかったです。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

EAを受験される方の動機や目的は様々だと思います。
ただ、あきらめなければ合格できる試験だと思います。
そして、合格したら自信にも繋がり、実務にも繋がる試験です。
最後になりましたが、皆様の合格とご活躍を祈願しております。



TACのテキストを信じれば、試験は大丈夫

飯田 一貴 さん

2016年 2月 EA試験合格

・ Part1 (2015年 5月 / 1回目)
・ Part2 (2015年12月 / 3回目)
・ Part3 (2016年 2月 / 2回目)

1958年生まれ
外資系企業に勤務

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

以前、ハワイのコミュニカレッジへ留学して、AccountingやTaxを学習したことがあります。コミュニカレッジを修了すると、OPT (Optional Practical Training) という制度により、1年間の労働許可がもらえるので、ハワイの大手日系会計事務所にインターンで就業しました。そこでの業務が非常に面白く、将来的にハワイで働いていくためにビザの申請を行うためには、EAの資格があったほうが取り易い (当時の事務所が招聘状を作成してくれる) ために、EAの取得を目指しました。

ちなみに、PTIN (申告書作成者番号) とSSN (米国社会保障番号) は、両方ともその当時に取得してましたので、試験の手続きは他の方よりも楽だったかもしれません。

ハワイでは日本語が理解できたほうが、日系企業のクライアントを取り易いというメリットがあります。

日本の本社へ連絡をするために、英語の勘定科目を日本語への変換することも必要になってきます。また、ハワイに不動産を持っている日本人の申告等も可能になってきます。

そして、EAの資格があれば、スタッフと呼ばれる人達よりも報酬も高くなってきます。

Q2. TACの講座でよかったところ

TACでは簿記等の講座を受講したことがあり、総合的な資格の専門学校という安心感もありましたし、社会保険労務士や行政書士もTACで合格できたのですが、その時の講師の質やテキストが非常に良かったので、EAでも迷わずTACを選択しました。

実際に受講してみて、内田先生の講義は非常にわかり易かったですし、教材には日本語解説もあるので、安心感がありました。

教材では、特に直前総まとめが良かったです。

Q3. 合格までの学習法

講義を聴いてから厳選問題集を解答して、その後でオンライン演習の問題を解答するようにしました。正答率が低い問題は、最後の1週間で再確認するようにしました。

PART2に落ちた後は、GLEIMのテキストの問題を繰り返して解答するようにしました。

Q4. 受験手続・受験時のエピソードなど

PTINは以前から取得していたこともあり、特に問題なく行うことができました。

受講生サイトのマニュアルが非常に役に立ちました。

試験当日のテストセンターの対応も丁寧で、受けやすい環境だったと思います。

どの科目も時間的には余裕があったので、2時間半くらいで終わってから休憩を取り、その後で見直しをするようにしました。集中力との戦いだと思います。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

TACのテキストを信じれば、試験は大丈夫だと思います。

本試験では見たことがない問題も結構出てきますが、厳選問題集のA,Bランクをやっておけば、十分に対応できると思います。

本試験では問題を頭からやる必要はありません。特に最初の5題くらいは難しめの問題が出てくる傾向にありますが、受験生を惑わすためだと思いますので、後回しにして、簡単な問題から解答するようにしてください。難しい問題は後回しです。

英語の文章は難しいものは出てこないもので、単語さえ覚えてしまえば試験は大丈夫だと思います。

オンラインで、解答方法に慣れておくことも大事だと思います。



本試験のポイントを押さえたTACの教材

堺原 崇 さん

2016年 1月 EA試験合格

・ Part1 (2015年11月) / 1回目)
・ Part2 (2015年12月) / 1回目)
・ Part3 (2016年 1月) / 1回目)

製造業 経理部勤務
税理士試験合格

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

会計・税務に関する英語力を向上させたいと考え、日本の税理士試験の結果発表までの間の時間を有効活用するために勉強を始めました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：税理士試験合格
英語知識：TOEIC®L&R TEST：790点

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

日本の税理士の勉強にあたって受講しており、会計系の資格試験に関する合格実績について信頼があったため。受講料が比較的低価格で受講できたため。

Q4. TACの講座でよかったところ

教材、カリキュラムのいずれも合格のために非常に効率的にできている点よかった。
結果的に、TACの厳選論点ノートで問われた論点をおさえておけば、本番の試験でも十分に対応できた。
また、確実性を高めるためにGLEIMの問題集も各受験生の志向にあった勉強ができてよいと思う。

Q5. 合格までの学習期間は？

5カ月程度です。
9月はじめから勉強を開始して、USCPAのTax講座2カ月、Part1合格1カ月。Part2合格1カ月。Part3合格2週間。要した時間は、自習時間のみですが、Part1 45時間(15時間×3週) Part2 60時間(15時間×4週) Part3 30時間(15時間×2週)程度です。

Q6. 合格までの学習法

TAC受講ガイダンスの通りの手順で下記のように受講しました。全体を通して、基本的には問題集の直しを中心とした学習をしていました。時間効率を上げるため、問題集を解く時には必ず記録して、解きなおす問題にはミス実績に応じて強弱をつけていました。

1.USCPAのTAX講義(基礎知識のインプット)。

DVDを視聴し、対応するU.S.CPAのTAX問題集を解きました。DVD視聴後、最初に問題集を解くときは、1,2問しか正解できませんでしたが、とにかく問題集を1回転しました。この段階ではあまり論点を(特にテキスト後半のものは)消化できていませんでした。

2.Part1(演習)

次の手順で行いました。①DVDを視聴、DVDを止めながら厳選論点問題ノートを解く。②厳選論点問題ノートを全て直しミスした問題を把握する。③ミスした問題だけを解き直す。④GLEIMの問題を読む程度に一通りみる。⑤オンライン100問テスト⑥最後の1週の前半：ミスした問題を解き直す。⑦最後の2日間：厳選論点問題ノートを全部解き直す。
USCPAのTAX講義と同様、厳選論点ノートを初めて解くときは、1割ほどしか解けませんでした。③のところあたりで解けるようになりました。初めて本試験を受験して、厳選論点ノートの問題が解ければ十分であることが確認できました。

3.Part2(演習)

Part1と同様の学習方法です。量が多いのでPart1より+2週程度勉強期間を要しましたが、割合や限度額などの個別・独立に覚える項目がPart1より少なく、投資の清算など幹となる考え方があり、横のつながりを理解すれば多くの問題を回答できるパートだったので勉強はしやすかったと思います。本番では、初見の問題が多く、覚えた知識ではなく常識的な感覚で解答した論点も多くあったので、不合格かと思ったのですが合格していました。

4.Part3(演習)

Part1と2と同様の方法です。量が少ないことと、どの程度やれば本試験対応できるか感覚がつかめていたので余裕をもって試験に臨めました。本試験ではPart2と同様に自信をもって解答できた点は少なかったのですが、無事合格できました。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

PTIN(申告書作成番号)の取得について。私は関西在住で色々ややこしいかと思っていたのですが、パスポート公証は関西でも簡単に早く取得でき、IRSからのPTIN連絡も短期間で取得できました。

勉強で困った点。米国の税法の学習はこれが初学だったことや、IRAや社会保険等の米国の制度に対する理解がなかったことから、学習開始時は勉強方法がつかめず歯がゆい思いをしておりました。途中から、試験合格と割り切って合格のための学習に切り替えました。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

米国税務の全体像を短期間で習得できることが、この勉強の良い点だと思います。
また、英語学習という点でも、毎日2~3時間、問題を解くために英語を読むことで読む能力が向上でき、また、税務に関する単語とそれがどういう文脈で使われるかを合わせて覚えることもできるので、TOEIC対策等よりも、英語力の向上にも大きく役立つと思います。



キャリアアップに成功しました

柴田 光雄 さん

2015年 9月 EA試験合格

- ・ Part1 (2015年 8月) / 1回目)
- ・ Part2 (2015年 9月) / 1回目)
- ・ Part3 (2015年 5月) / 2回目)

米国事業進出コンサルティング マークリサーチ有限会社 勤務

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

米国への事業進出をサポートする業務に携わっていますが、私自身が税務の知識を持ち、またIRSに
対し対応できる資格を得たかったことが目的です。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：大学等での勉強経験はありませんが、過去の業務を通し少々知識がある程度です。
英語知識：中程度で問題ありません。

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

私が調べた時点では、EA講座はTACともう一つの学校だけでしたので、迷わず信頼できるTACに決
めました。

Q4. TACの講座でよかったところ

内田先生のポイントを押さえた講義が良かったと思います。テキストのどこは必ず記憶し、どこは
不要と的確に解説があり、それに沿って学習しました。

Q5. 合格までの学習期間は？

Part 3に2か月、Part 1に3か月、Part 2に1か月です。

会計の深い知識がありませんでしたので、多少時間が掛かったのは否めませんが、自分なりに計画
通りであったと思います。

Q6. 合格までの学習法

基本的に平日は毎日夜に自宅で2時間程度、土日はTACの自習室で3~5時間程度学習しました。なる
べく学習時間を短縮しようと、DVDを2倍速・3倍速で見ることを試しましたが、テキストに書き込
みはできるが記憶に残らず、結局1倍速が最も効率が良かったようです。会計とは関係が薄い、Part
3の法律・手続きから学習しましたが、やはりPart 1から学習したほうが効率的だと思います。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

一番初めに受験したPart 3では一度不合格となってしまいました。
完璧に学習したつもりでしたが、学習していない問題が続き焦ったのが原因だと思います。
内田先生が繰り返しおっしゃっていたように、得点にならない難しい問題が含まれており、それは
無視してよいようです。
2回目からは、基本的な問題に正確に回答することに努め、残りは一発合格できました。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

日本ではUSCPA資格が有名ですが、米国の税理士事務所や会計事務所ではEA資格保有者が多数働い
ています。もし、米国や米国企業への就職を希望するのであれば、EAを取得することは効果がある
と思います。是非、あなたのキャリアアップに繋げていただきたいと思います。



TACのテキストで短期合格

日高 涼 さん

2016年 1月 EA試験合格

- ・ Part1 (2015年11月 / 1回目)
- ・ Part2 (2015年12月 / 1回目)
- ・ Part3 (2016年 1月 / 1回目)

1989年生まれ
明治大学 商学部卒業
コンサルティング会社勤務

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

もともと日本の税理士を目指しており、国家資格を取得して、プロフェッショナルとして自分の仕事の幅を広げていきたいと考えていたときに、会社の人から米国税理士という資格があることを知り目指しました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：
税理士の財務諸表論1科目を合格したレベルです。

英語知識：
7年前にTOEIC®L&R TESTが600点、BATICのアカウントレベルを取得した程度なので、あまり得意といえるレベルではないと思います。

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

ネットで米国税理士を調べたところ、TACが一番よさそうだったからです。

Q4. TACの講座でよかったところ

教材がとてもわかりやすく、TACの教材をやれば確実に合格できます。
あとは、メールでの質問対応がよかったと思います。

Q5. 合格までの学習期間は？

USCPAのTAX講義を2か月、そのあとPART1を3週間、PART2を1か月、PART3を3週間です。
トータルで4か月半くらいです。

Q6. 合格までの学習法

平日は3時間、土日は5時間くらい勉強しました。
勉強方法はTACの厳選問題集とGLEIMのテキスト・問題集を各パート3回転しました。
オンラインでの演習問題は解答の仕方を知ること以外にやる必要はないと思います。
問題がA,B,Cとランキング分けされていますので、Cランクにはあまり手をつけず、AランクとBランクを確実に解けるところまでやりました。とくに、厳選問題集を細かく勉強することが重要です。
英語ですので忘れるのが早いので短期集中が大事かと思います。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

PTIN (申告書作成者番号) 取得手続きは全て英語でとても大変です。
手続のマニュアルもありますが、TACの人に何回も連絡をしてとても時間がかかったので早め早めの取得手続きが重要です。
本試験は、思っていたよりも細かいところまで出題されますのでかなり難しく感じましたが、合格はできていたといった感じです。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

TACのテキストで勉強すれば確実に合格できますので、あきらめずに最後まで頑張ってください。
皆さんが、国際税務のプロフェッショナルとなれることを期待しております。



TACがベストである

S.H さん

2015年 5月 EA試験合格

- ・ Part1 (2014年11月 / 1回目)
- ・ Part2 (2015年 2月 / 1回目)
- ・ Part3 (2015年 5月 / 1回目)

同志社大学大学院 2005年度卒業
会計事務所勤務

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

米国での顧客獲得のため。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：USCPA、日本の税理士
英語知識：英語力上級

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

税理士、USCPAともTACの支援を受け、資格取得できた。EA講師が優れている。

Q4. TACの講座でよかったところ

講師、教材、カリキュラム、すべてよかった。

Q5. 合格までの学習期間は？

2年

Q6. 合格までの学習法

勉強内容が多く、一回、終えた後、二回めに再度じっくり理解し、合格できた。練習問題をこなすのが大変です。

契約学習時間を超えての終了となったが、ご厚意で質問に回答していただき、大変感謝しています。おそらく、追加料金をTACは請求すべきところ、助かった。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

PTIN取得、EA登録のTACからの情報は本当に助かった。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

税理士、USCPAのみならず、EAを目指すなら、TACがベストである。講師、教材、カリキュラムすべて優れている。

しかも、価格はサービスに対し、廉価である。迷わずTACで勉強してください。



米国で外国人として生き抜くために

石田 賢史 さん

2015年 6月 EA試験合格

- ・ Part1 (2013年11月) / 1回目
- ・ Part2 (2015年 6月) / 4回目
- ・ Part3 (2014年 8月) / 3回目

※TACでUSCPA講座を受講後、EA講座は受講されず合格
 1985年5月生まれ
 横浜国立大学大学院 修士課程卒 (2010年卒 教育学)
 米国人 経理・人事・給与アウトソーシング事業部所属 (L.Aで勤務)

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

アメリカ在住の外国人として、現地で専門職の資格保持者として差別化を図りたかったためです。EAは米国国内歳入庁 (IRS) より付与される国家資格で、弁護士、公認会計士資格と並んで税務の権限が取得可能なこと、また会計事務所の開業もできるという立派な資格であったため取得を目指しました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：米国会計基準 (USGAAP) での経理経験3年弱

英語知識：日常会話・ビジネスでの読み書き、電話での応対が可能なレベル

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

私はEA講座を受講したわけではないのですが、USCPA本科生をかつて受講しており、EA講座のカリキュラムがUSCPA講座のTAX講義部分とEA対策から構成されていることから、USCPA講座のTAX講義にプラスして自分でGLEIM教材を購入して学習することでEA試験に合格できると考えました。

Q4. TACの講座でよかったところ

USCPA講座のTAX講義内容と、直前対策まとめノート (以降“直対”) は逸品でした。特にPart2の受験の際には、直対のBasisの知識のまとめ部分に関しては本番試験中にどこに何が書いてあったか思い出せるくらいにまで準備をしました。私はUSCPA本科生であったためEA講座は受講せず自分でGLEIM教材を購入して勉強を進めましたが、GLEIMのテキスト部分を英文読解するのは容易ではなく、特にTAX特有の論点であるBASISのきちんとした理解はTACの教材がなければ正直厳しかったかなと思いました。(EA本科生の中にはUSCPA講座のTAX講義が含まれています。)

Q5. 合格までの学習期間は？

2年です。家庭の事情もあり勉強ができない期間もありましたが、2年前にGLEIMを購入してから合格までには1000時間を要しました。USCPAのテキストの内容だけではEA試験対策は50%程度しかカバーされておらず、自分で調べて解決していくことに膨大な時間がかかってしまいました。EA講座を利用し、GLEIM日本語解答集とEA特有の細かい知識の日本語解説があればより短時間で合格できたと反省しています。また試験のボリューム感はUSCPAの2科目分 (半分くらい) が目安になるとかと思っています。

Q6. 合格までの学習法

まずはDVDでUSCPAのTAX授業を聞いた後、USCPA厳選問題集で必要なところの問題を一通り解きました。その後GLEIMでの問題の反復を行いました。GLEIMはすべてのPartで全問2回転と間違えた問題をさらに2回転、3回転くらいしました。試験を受けた順番はpart1→part3→part2の順番でした。Part1はGLEIMの英文に馴れるのに時間がかかりましたが、Partごとに必要な論点を自分でノートにまとめて理解するようにしていました。試験前は自分でまとめたノートは最低限見なおすようにして受験しました。Part3は、英語の読解に苦労しました。Part3の部分はUSCPAのテキストの範囲外の部分がほとんどで、EA講座を受講していなかった私は自分でGLEIMテキストを読解しなければなりません。私は税務の訴訟や、手続きなどに馴染みがないため内容の理解に苦しみ、かなり勉強に時間を要してしまいました。結果的に合格ラインに少し足りない点数で不合格が続き、3回も受験する羽目になってしまいました。最後まで理解しきれないまま合格してしまった科目でした。最後に受験したPart2は3回落ちてしまい、4回目にして合格することができました。Part2は範囲にボリュームがあり、勉強をしている間に他のPartの内容をどんどん忘れていってしまい、非効率な学習になってしまいました。4回目の試験1週間前からはGLEIMオンラインで、テキストの章末問題のみに絞って、ランダム順で全問 (585問) 解きなおしをし、記憶が新しい状態で受験をしたところ最終合格することができました。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

アメリカに在住しており、受験手続も受験も現地ロサンゼルスで行いました。受験してすぐに合格がわかるのは面白いところです。結局8回受験しましたが、毎回本番試験よりも、試験後の合格発表を待つ時間の方が緊張が高まりました (笑) 合格した瞬間は、いつも試験スタッフの方々とはハイタッチを交わし、楽しい時間となりました。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

合格率が高いため簡単に思われがちなEA試験ですが、合格までにはそれなりの勉強が必要かと思われます。それぞれのPart毎の合格率は高くても言語的にNon-Nativeには不利な試験ですから、しっかりと準備が必要です。しかしながら、勉強を続ければきっと合格できる試験です。資格取得後のイメージを持って勉強のモチベーションを保ちましょう。



体験記タイトル

K.A さん

2015年 5月 EA試験合格

- ・ Part1 (2014年11月 / 1回目)
- ・ Part2 (2015年 2月 / 1回目)
- ・ Part3 (2015年 5月 / 1回目)

他保有資格：税理士、米国公認会計士

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

税理士としての業務拡大の為、US CPA資格を取得し、更にEAも取得しようと思ったため。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

外資系会計事務所勤務や海外出向経験あり。

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

USCPA講座での内田先生のTAX講義が非常に良く、同じ内田先生が担当していると聞いたため。他の学校は見えていないが、TACのUSCPA講座を受講していたため他を検討しようとは思わなかった。

Q4. TACの講座でよかったところ

内田先生の講義は非常に良かった。
Gleim教材は網羅的で詳しい。
講義ではその内、合格に必要な箇所を抽出して問題数を限定しているので非常に効率的に合格することができる点良かった。

Q5. 合格までの学習期間は？

3つのPart毎に1カ月間の合計3月間。
仕事が忙しい時期と、試験が実施されない期間（3～4月）があったため、思ったより時間がかかってしまった。

Q6. 合格までの学習法

USCPAのTAX勉強時から自分でまとめているメモに更には書き加えながらDVDを見てGleim問題を解くだけ。US CPAでonline問題には慣れていたのでGleim online問題は解けなかった。
実際試験時間は十分長いのでPC操作に慣れておく必要は無かった。

Part 1：甘く見て試験に臨んだら勉強していない細かい箇所が多く出て非常に焦った。しかし合格するにはそこまでカバーする必要はない様である。
ひっかけ問題や一見分からない問題でも類推できる問題が有り、長い試験時間の最後まで見直して解答を随分修正して行って合格点に達したように感じた。
予想より細かい問題が出題される、とあって勉強したほうが良いだろう。

Part 2：Part 1での反省を踏まえて細かい点まで目を通していたので試験では焦らなかった。個人事業などPart 1と重複する問題も多かったのでPart 1とPart 2は時間を空けずに試験を受けたほうが良いだろう。

Part 3：十分準備した割には難しく感じた。ひっかけ問題や細かい問題があったせいかもしれない。2014Edition教材で勉強したが2015年の試験でも特に支障はなかった。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

EAの資格も試験内容もよく知らずに勉強していたので3月、4月が受験出来ない月であることもPart 3の試験申し込み時に知ったり、試験が終わってすぐに結果発表になるのも試験会場で知ったりとなかなか面白い経験であった。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

U.S.CPAのTaxより難しいです。
合格率の高さは基礎知識のある受験生が多いためだと思います。



TACで世界に飛び出すチャンスを掴もう！！

佐藤 明充 さん

2015年 2月 EA試験合格

- ・ Part1 (2014年11月 / 1回目)
- ・ Part2 (2015年 1月 / 1回目)
- ・ Part3 (2015年 2月 / 1回目)

1970年8月生まれ
専修大学 1993年卒業
佐藤税理士法人
他保有資格：公認会計士、税理士、IFRS検定合格

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

近年、仕事の中で米国税制に絡んだ案件が増えており、断片的な知識のみでは対応が難しくなりました。

そこで、サービスの質の向上を図る上でも体系的な米国税制の知識が必要と思い、EAにチャレンジしました。また、日本に米国税理士の取得者がそれほど多くなく、今後専門性を仕事の上でアピールするには、優位性の高い資格であることも考えました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：既にCPAとして独立しているので、特に問題がありません。

英語知識：ビジネス英語は、中級程度

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

TACのパフレット等でEA講座を開講していたのを知っていました。

また、以前に公認会計士試験や税理士試験の対策でTACの講座を受講した経験があり、その品質が高いことに確信を持っていたためです。

Q4. TACの講座でよかったところ

TACのテキストは、大変コンパクトにまとめられおり、学習しやすかったです。

私は、EA本科生でしたのでUSCPA (TAX) の学習からスタートしましたが、知識の無い状態でも基本から段階を踏んで学習が進みますので、無断なステップがなく短期間で理解を深めることが出来ました。

Q5.合格までの学習期間は？

私は、2013年10月から学習を開始しましたが、仕事が繁忙期に入ったため、一時中断しました。そして2014年10月から学習を再開しました。

従って、表面上の学習期間は、約1年4ヶ月になりますが、途中休んでいた期間を考慮すると、実際の学習月数は、約6か月間です。

Q6. 合格までの学習法

1. 全般事項

暗記事項は、人間の忘却曲線を前提に記憶作業を行うのが効率的です。理解事項は、自分なりに腑に落ちるまで考え、あとは練習問題をこなしながら正答にたどり着く思考回路を磨きました。EA演習講義のDVDによる解説は、効率的に講義を進ませるため、各回で進むパート分の問題を事前に解いてから聞くようにしました。あとは指導通り、テキストを2回転させてから、GLEIMを1回転、GLEIMコンピュータ演習ソフトでランダム100問演習を2回程度解いてから本試験に臨みました。

2. 科目別

Part1は、暗記事項が多かったため、結構大変でした。特に細かい数値や項目は、似たような数値の項目と関連付けて覚えたり、常識的な感覚との違和感を利用して覚えたりしました。

Part2は、ボリュームが多いので、全てのユニットが終わるまでに前半のユニットが忘れそうになりました。しかし、一度通して理解すれば、全体の中での個々の学習ポジションが把握できるので、忘れにくくなります。忘れるのを恐れず、一気に最後までやるのがポイントです。

Part3は、テクニカルワードが回答にあたり重要になるので、その暗記を重点的に行いました。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

PTINの最初の取得を郵送で行ったため、更新がWebで出来なく困りました。特にパート2の試験を1月に控えていたので、急いで更新する必要があったのです。しかし、IRSへ直接電話をして、Webで更新可能とするためのアクティベーションキーを即座に入手できたので事なきを得ました。

コンピュータ試験は、初めての経験でしたので、勝手が分からず困惑しました。セキュリティーのためのボディチェック、スクラッチペーパーの配布、鉛筆、電卓の貸与があるとも知らず、パート1の試験前はかなり不安で一杯でした。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

TACが提唱する効率的な学習の進め方に沿って着々と学習を進めれば、短期間で必ず合格できます。

日本もグローバル化が進んだ影響で、税務を中心としたワークフィールドにいる方は、今後EAの知識は必要不可欠となるでしょう。

特に税務実務に携わったことがある方であれば、内容理解が早いと思いますので、自分の付加価値を高める手段としてEAはお勧めです。



米国税理士で差別化を図ろう！

鈴木 聖久 さん

2014年10月 EA試験合格

- ・ Part1 (2014年 9月) / 1回目
- ・ Part2 (2014年10月) / 1回目
- ・ Part3 (2014年10月) / 1回目

1979年生まれ
 2002年度 横浜国立大学 経済学部国際経済学科卒
 東証一部上場 機械メーカー
 他保有資格：通関士

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

TACの税理士受講生です。3科目合格済で今年8月の試験では法人税を受験。税理士試験後、12月の合格発表までの期間を利用し、取得を志しました。税理士試験は長丁場であり、科目合格毎にゴールに確実に近づくことは出来るものの、最終合格迄には長い時間がかかります。一方、米国税理士は、3科目の合格が必要とは言え、短期間で最終合格が可能であり、また、最終合格の暁には資格取得者としてPRが可能です。一早く専門家として差別化を図る上で、非常に有効な資格と考えました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：税理士受験直後の為、自信は有りました。
 英語知識：TOEIC®L&R TESTで730点レベル。

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

税理士講座でお世話になっている為、迷わず選択しました。

Q4. TACの講座でよかったところ

- ①**教材**：演習講義は抜群です。短期合格を目指す自分にとって一番有り難い、合格に必要な最低限度の知識が集約されているからです。
- ②**講師**：講師の方の気合いのこもった授業は印象に残りました。また、英語の発音を勉強できたのも本当に良かったです。アメリカナイズされた、これでもかという位に抑揚を付けたアクセントを聞くのは癖になりました。これからは、是非自分も先生の発音を取り入れて、日本人がしゃべる英語からの脱皮を図っていきたいです。

Q5. 合格までの学習期間は？

ネットで、パート1(個人所得税)100時間、パート2(法人税)120時間、パート3(手続き関連)20時間が標準と書いてあるのを見つけました。とにかく、自分もこの時間以内で(できれば更に短縮して)合格することを目指しました。結果はネット記載の標準時間とほぼ同等となりました。

パート1：税理士試験でも所得税は未学習であった為、パート1には苦労しました。ネットの記載通り、100時間掛かりました。(演習講義は2回転)

パート2：税理士試験の法人税の知識が生き、ネットの記載より短い80時間程でした。計算問題が多く、一番楽しく取り掛かれました。(演習講義2回転)

パート3：ネットの記載通り20時間。これ以上は短縮不可と思います。同じくTACの合格体験談を記載されているツワモノの方の記事でも、パート3は1度落としたというのを事前に見ていたの、逆にここが落とし穴と思い、一番慎重に対応しました。(演習講義3回転)

Q6. 合格までの学習法

CPAコースDVD→CPAコース問題1回転→演習講義DVDを問題毎に止めながら見て、問題1回転→演習講義問題2回転(この時に、各パートごとにA4用紙1枚に暗記の必要があるものを書き出す)→試験直前：間違えた問題及び上記A4用紙1枚の暗記

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

- ①最初の難関はパスポートの公証でした。広島に住んでいる為、米国大使館に代理人でも取得可能か確認をし、その後、東京に住んでいる母親に委任状を郵送で送り、代理で行ってもらうことで、取得できました。
- ②短期決戦の為、各パート毎に勉強が7割方仕上がり、ゴールが見えた段階で果敢にテストの予約を入れました。プロメトリックの受験会場である大阪までの往復新幹線代2万円がかかっているため、絶対に負けられない状況に自分を追い込むことができます。それでも、まだE A受験に不慣れだったパート1の学習段階においては、会社の仕事の山も重なり、思うように進まず、直前に2回、テストをキャンセル。キャンセル料の出費はかさみました。
- ③試験は毎週何日も開催されているので、短期合格を目指す自分にとっては非常に有り難かったです。また、テスト終了後、すぐに合否が発表されますので、緊張、喜び、達成感を瞬時に体験できます。自分の場合、全科目ざりざりだったとは思いますが、幸いにも一発合格することができ、8月下旬の受講開始から10/19迄の2ヶ月間で、目標通り短期合格を果たすことができました。(100文字程度～)

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

- ①米国歳入庁から頂ける国家資格は非常に魅力的だと思います。専門家としてのプラットフォームとして利用され、税務知識・英語力・国際感覚を磨く土台とされるのも良いと思います。
- ②アメリカの社会福祉制度、オバマ大統領の政策方針、日米税制度の相違点も知ることができ、習得できる知識は面白く、且つ、実用的です。(学習後は、米国のニュースをより深い視点で見ることが出来るようになります！)また、日本では国民総背番号制の導入で、番号として管理されるのでは等という議論もされていますが、アメリカではとっくに背番号制が確立しているというような事情も分かり、国際比較も出来るようになります。
- ③“離婚”、“慰謝料”が頻繁に登場するアメリカ独特のお国柄を改めて知ることが出来たり、ビル・ゲイツ氏が寄付金をした場合の取り扱い等も理解できるようになります。(雑学も向上！)



グローバル時代を生き抜くために

福山 幸伸 さん

2014年 9月 EA試験合格

- ・ Part1 (2014年 7月 / 1回目)
- ・ Part2 (2014年 8月 / 1回目)
- ・ Part3 (2014年 9月 / 1回目)

早稲田大学
通信会社勤務

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

勤務先のグローバル事業展開が加速する中で、社内において米国会計・税務のスペシャリストとしてのプレゼンスを向上させたかった為です。
既に取得していたUSCPAに加えて、EAの資格を持つことにより、自身の知識や経歴に厚みを付けたいと思いました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

TOEIC905点、USCPA、海外勤務歴5年（米国4年、英国1年）

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

受講費用を抑えたかったこと、またUSCPAを既に取得していたので、学習項目の重複を避けたかったことを考慮したところ、TACが一番良い条件でした。

Q4. TACの講座でよかったところ

厳選問題要点ノートには試験合格に必要な項目がコンパクトにまとめられていたため、余分に学習時間を費やすことなく、比較的短期に合格レベルへ到達できたと思います。
また、DVD講義では合格のために抑えておくところ、目を通しておくべきところを的確に指示頂いていたと思います。

Q5. 合格までの学習期間は？

3か月で200時間（Part1-90時間、Part-90時間、Part-3-20時間）。
平日は2時間、出来なかった分は週末でカバーし、1週間で15時間学習時間を取るようになりました。

Q6. 合格までの学習法

Part1のDVD聴講から始めたのですが、講義の中で「まず厳選問題要点ノートを1度解いてから聞いた方がよい」とアドバイスがあったので、Part2、3からは厳選問題要点ノートを一度解いてからDVDを聴講するようにしました。
実際、自分には講義のスピードが速いと感じられたので、予め講義中に解説される問題の内容を知っておくことにより、確認のためにDVDを途中で止めることがなくなり、効率よく学習できたと思えました。

全パートを通じて取った学習法は、

- 1、厳選問題要点ノートを1回転
- 2、DVDを聴講
- 3、以後、問題を解く毎にノートに○×△を付け、3回連続○になるまで解き続ける。でした。

実際の試験はテキストの問題がそっくりそのまま出題される訳ではありませんので、解説を読む際は、正解の選択肢が「何故正解だったのか」を理解するだけでなく、残り3つの選択肢が「何故不正解なのか」まで理解しておくこと、学んだ論点がテキストとは違う問われ方をした場合でも対応できる力が付くと思います。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

テストセンターの冷房が強いことを懸念して、念のために長袖のTシャツを持っていきました。結果的に役立ちました。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

一回目に厳選問題要点ノートを解いた際、自信をもって○（正解）を付けられた問題は二割程度でした。

その後は、間違った問題を何度も解き、ポイント解説をしっかりと読むという基本動作を愚直に繰り返したのですが、合格レベルに達することが出来ました。

GLEIMは「余裕があったらやる」くらいのレベルでいいと思います。

学習初期に正解できない問題が多いのは当たり前ですので、諦めずに実績のある予備校が作成した教材を信じて学習を続けて頂ければと思います。



あなたもアメリカの税理士になりませんか？

西嶋 明範 さん

2014年 7月 EA試験合格

- ・ Part1 (2014年 5月 / 1回目)
- ・ Part2 (2014年 7月 / 1回目)
- ・ Part3 (2014年 3月 / 1回目)

1985年生まれ
同志社大学法学部卒業
日本たばこ産業 株式会社

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

まずは、グローバル企業の国際税務部門に籍を置いている以上、米国の税法の知識が不可欠だった事、そして、米国の税法が世界で最も影響力のある税法である事、今後、世界中のフィールドで活躍できるようになりたいと思っている事から、米国税理士試験に挑戦することを決めました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語力も税務スキルも秀でたものではありませんでしたが、TACを信じて努力すれば不可能を可能にできました。

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

TACは「資格の学校」と呼ばれるだけあって、豊富な講師陣と洗練されたテキストが揃っているからです。米国関連資格の講座を早くから導入しており、確かな実績があったことも決めてとなりました。

Q4. TACの講座でよかったところ

TACの教材が抜群に素晴らしかったと思います。米国税理士試験は、米国税務に関する幅広い知識が問われる為、勉強方法を誤れば余計に時間がかかると思います。その点、TACの教材は確実に試験合格する為のエッセンスが凝縮されており、最高の教材だったといえます。講師の方の説明内容も、とてもわかり易いものだったといえます。

Q5. 合格までの学習期間は？

真面目にやれば半年から一年程度で必ず合格できます。

Q6. 合格までの学習法

合格の決め手はPart1の確実な理解だと思います。Part2のほうが、学習範囲も広く難易度も高いのですが、Part1において、米国の税法に関する基礎固めをどれだけきちんとできたかにより、Part2の早期合格が決まると思います。英語力の有無やタックス・センスの有無によって、学習方法は千差万別だと思いますが、自分のような初学者でもTACの講座で学んで合格できたので、やはり「努力」が一番大切だと思います。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

当初、米国税理士試験を受験するために必要な手続に関して知見がなく不安を感じておりました。しかしながら、TACは受験手続面に関しても、抜群にサポートしてくれました。国際ライセンスを取得するためには受験手続のハードルの高さもありますが、TACにはきめ細やかなサポートがあるので、安心して資格勉強に集中することができると思います。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

近年、税法のグローバル化が進んでおり、米国の税法がその主導的役割を担っていくと思われます。米国税理士資格があれば、個人開業、企業内や税理士法人等における国際税務、そして経営コンサルティング等の様々なフィールドで活躍できますし、米国税務裁判所における代理人への道も開けます。大切な事は、「まず決める、そしてやり通す」ことだと思いますので、ぜひTACで栄光を掴み取りましょう！



半年あれば人生を変える事ができます

加村 智紀 さん

2014年 2月 EA試験合格

- ・ Part1 (2013年12月) / 1回目)
- ・ Part2 (2014年 2月) / 1回目)
- ・ Part3 (2013年12月) / 1回目)

1982年生まれ
 同志社大学 経済学部卒業
 税理士事務所勤務
 税理士試験 財務諸表論科目合格

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

日本の税理士試験の受験後に他の人と差別化を図りたいと思った点と、前職での外資系企業での英語の業務使用経験を活かしたいと思い学習を決意しました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：税理士試験の財務諸表論合格レベル

英語知識：前職での外資系金融機関での通常業務（メール、電話など）程度

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

日本の税理士試験での実績や知名度を鑑みて選びました。

Q4. TACの講座でよかったところ

内田先生の直前対策まとめは非常にコンパクトかつ網羅的に内容が纏められていて通勤時間や細切れの時間の際の復習に大変役立ちました。
また講義スタイルも良い意味で独特で話を聞き入る事も多く、理解の手助けになったかと思えます。

Q5. 合格までの学習期間は？

平日は約3時間、土日は約10時間学習しましたので総じて700時間程度（約5ヶ月）です。

Q6. 合格までの学習法

合格する事は当然として、それ以上に米国税務の知識を得たかった為GLEIMはCランクも含め全て学習しました。

分からない問題は日本語解説をコピーして直前対策まとめに貼り付けて、細切れの時間に確認する事で内容の整理と知識量の増加が図れたかと思えます。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

関西在住であるためP-TINの取得に苦勞するかと思いましたが受講生専用サイトにある代用策を使い東京に出向くこと無く取得でき大いに助かりました。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

EA試験はもちろん英語の試験ですが難解な英文法は出なく、受験時はそれ程苦勞する事はありませんでした。

むしろ日本の税務知識があった事が合格に結びついたかと思えますので、そのような方はステップアップの1つとして是非受験される事を強くお勧めします。



TACで短期合格を掴み取ろう！

福留 聡 さん

2014年 1月 EA試験合格

- ・ Part1 (2013年12月) / 1回目
- ・ Part2 (2013年12月) / 1回目
- ・ Part3 (2014年 1月) / 2回目

1976年生まれ
 慶應義塾大学卒業
 福留聡事務所
 その他資格：公認会計士、米国公認会計士

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

米国公認会計士（USCPA）の受験をしている時からEAには興味がありました。当時はTACではEA講座が開講しておりませんでしたので、他校を検討したのですが受講料が思ったより高かったためその時は断念しました。その後、TACでリーズナブルな受講料でEA講座が開講されたので学習を決めました。USCPA受験の時に米国の税務を学習しており、さらに独立して税務関連の仕事もしているので、より深く学習したいと思ったのが大きなきっかけです。また、日本と米国の資格を持っていて、それをアピールして独立している人もそこまで多くいませんので、希少価値があるということも考えました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

日米の会計士として独立して仕事をしていますので、英語力・会計知識は問題ありませんでした。

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

日本の公認会計士、米国公認会計士もTACで学習しましたので、EAもTACを選びました。また、受講料もリーズナブルだったことも決め手になりました。

Q4. TACの講座でよかったところ

TACでUSCPAの勉強をしていたため、その知識にEAの知識をプラスしていくスタイルが取れましたので非常に学習し易かったです。USCPAのTAXとEA講座は同じ講師ですので、教材も統一感がありました。基本的にはGLEIMをやらずにTACの教材だけで十分合格レベルを目指せると思います。薄いテキストに重要論点を良くまとめていただいていると思いました。講義回数も、USCPAのTAXを勉強してからEA用の勉強をするので、回数もちょうど良いと思います。私は、試験を3科目一緒に受けて、一番合格率の高いPart3にだけなぜか落ちてしまったので、Part3だけGLEIMを回しました。

Q5.合格までの学習期間は？

受験手続を始めてから3か月くらいです。

Q6. 合格までの学習法

細かい数値や年数が問われるので、細かい知識部分の暗記に気をつけました。とは言え、すぐに忘れてしまいますので、繰り返しテキストを反復することが大切です。構造はUSCPAとそんなに変わりませんので、持っている知識が活かせました。時間のある方は、TACの教材をやった後にGLEIMを回せば完璧です。効率的に受験したい方は、TACの教材だけで合格点レベルにはいけますので、不安な論点や足りないと思った範囲についてGLEIM問題を解けば良いと思います。オンラインの教材は使いませんでした。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続が最初できませんでした。Internet Explorer11を使っていたのですが、EAの申込みサイトが対応していなかったため、申込みがはじかれてしまい数か月間原因が分からず手続が進みませんでした。その後、ダウングレードをすれば申込みができるという情報を入手し、実際にブラウザをダウングレードしたら申込みができました。このあたりの方法はネットで調べればすぐにやり方が探せるので、もし手続きではじかれてしまう方がいらっしゃいましたら試してもらえればと思います。EA試験では受験手続が進まないというトラブルはありましたが、全体的な手続き自体はUSCPAの方が大変でした。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

米国税務をすでにやっていたり、これからやってみようと思っている方が取るのが一番良いと思います。日本の税理士、会計士の方やBig4などで米国税務をやっている方であれば知識的に取っ掛かりがあるので合格が早いと思います。TACの教材をしっかりとやれば合格レベルに達しますので、安心して合格を目指してがんばってください。



TACの講師と教材により、短期合格が可能です。

長 宏亮 さん

2013年 9月 EA試験合格

- ・ Part1 (2012年11月) / 2回目
- ・ Part2 (2013年 1月) / 1回目
- ・ Part3 (2013年 9月) / 2回目

1988年生まれ
東京理科大学2011年3月卒業
総合系コンサルティングファーム勤務
その他試験：税理士試験簿記論、財務諸表論科目合格

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

日本の税理士試験を学習しながらでも、日本の税理士試験の結果通知までの間に米国税理士の取得ができると思った為。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：税理士試験の簿記論・財務諸表論合格レベル。

英語知識：大学受験レベル。大学受験以来学習していない。

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

TACは大手の資格の学校の中でもいち早くEAに取り組んでいた。

また、TACには、米国CPAの講座もあり、EA講座の信頼性も高いと考えた為。

Q4. TACの講座でよかったところ

講師、教材、受講生専用サイトによるサポートがよかった。

Q5. 合格までの学習期間は？

100～120時間程度

Q6. 合格までの学習法

EA講座のレジュメを中心に基本的な原理・原則を身に付けた。

SEE1、SEE2に関しては、上記方法で、補助教材Gleimを使用することなく学習した。SEE3に関しては、英語力がSEE1、SEE2に比べて必要と感じた為、補助教材Gleimを使用し、量をこなすことで、英語の読解力の向上も図った。

学習時間は、職場の昼休みや通勤の時間を活用し、隙間時間を有効活用した。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続に関して、受講生専用サイトによるサポートが大変役に立った。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

TACの講師と教材により、短期合格が可能です。

将来的に、ダブルライセンス取得を考えている方は、日本の税理士試験の結果通知までの間に取得することも十分に可能です。

たとえ、結果通知までの間に3科目合格できなかったとしても、受講生専用サイトによるサポートで税制改正点も把握ができ、翌年度において問題なくチャレンジができます。



TACの講座だけで合格できます！！

平野 洋人 さん

2013年 2月 EA試験合格

- ・ Part1 (2012年10月) / 2回目)
- ・ Part2 (2013年 2月) / 2回目)
- ・ Part3 (2012年11月) / 1回目)

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

これからの時代は、さらに税務の国際化が進んでいくものと考えたため。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

ともに、基礎的な大学卒業レベル

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

TACは、地方においても、会計関係の講座に強いと評価されているから。

Q4. TACの講座でよかったところ

講師の熱心な講義が、体に浸透してくるようで、とても理解しやすかった。

Q5. 合格までの学習期間は？

250時間～300時間

Q6. 合格までの学習法

教材をそれぞれのパートごとに、3回繰り返し、その後グライムの問題集を2回繰り返し勉強した。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

受講生専用サイトを毎日閲覧したことで、不明な点がなくなり、スムーズに受験手続や本番の受験に臨むことができた。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

とにかく、TACの講師陣と教材を信じて、粘り強く勉強すれば、合格できると思います。



TACのおもてなし

M.F さん

2013年 9月 EA試験合格

- ・ Part1 (2013年 8月合格)
- ・ Part2 (2013年 9月合格)
- ・ Part3 (2013年 9月合格)

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

U.S.CPA試験に合格していたということと、短期合格可能ということも聞いていたため、せっかくの機会だから挑戦してみようと思いました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記1級、USCPA試験合格

英語知識：TOEIC®L&R TEST 900点

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

日商簿記1級、U.S.CPA試験、証券アナリスト試験等のTAC講座を過去に受講していたから。

Q4. TACの講座でよかったところ

内田先生の講義はとても分かりやすく、表情や話し方がユニークなので記憶に残りやすく助かりました。

自分自身が苦手な部分は、内田先生のものまねをしながら理解するように努めたこともあります。

教材については、内容を簡潔に記載しようとされているのだろうなと感じました。

シンプルでとても理解しやすく、読みやすいです。

受験当日の試験会場までの移動時間に全てのページにざっと目を通すことができました。

効率的な勉強で合格を実現させるカリキュラムなのではないかと思います。

これが「TACらしさ」なのかもしれません。

Q5. 合格までの学習期間は？

Part1：3週間、Part2：2週間、Part3：2週間

受験勉強スタート時は少しゆったりとしたペースで勉強を開始しましたが、慣れるに従ってペースが上がってきました。

Q6. 合格までの学習法

DVDをしっかり視聴して、受験1週間前から厳選問題集を1回、そして間違った問題をもう一度。

受験当日早朝に間違った問題をまず解く。

そして移動時間に厳選問題集全体に軽く目を通して受験本番を迎えるようにしました。

全ての科目について同じ方法を採用しています。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続はTACの受講生専用のウェブページで紹介されている説明に従って順調に進めることができました。

受験時のエピソードは特筆することはあまりありませんが、知らない問題が出題されてもあまり気にしないようにしました。

あと、Part1の試験会場では（おそらく）お酒くさい受験生がいらっしまったためニオイが気になったり、Part3ではPC端末の音がとても大きかったりして集中力を高めるのに少し苦労しました。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

TACの講座内容をしっかりおさえれば短期合格可能だと思います。

私は厳選問題集にしか取り組んでいなかったため、特にPart1の受験時は少し不安な気持ちが残っていました。

時間に少し余裕がある方はGLEIMの問題集掲載の全問題に取り組めば、自信を持って受験できるかもしれません。



TACなら、無駄なく効率的に合格を目指せます！

近藤 勝義 さん

2012年12月 EA試験合格

- ・ Part1 (2012年 9月 / 1回目)
- ・ Part2 (2012年10月 / 1回目)
- ・ Part3 (2012年12月 / 1回目)

明治大学 2009年3月卒業
大手税理士法人勤務

Q1. EA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

2012年8月より税理士法人へ出向するにあたり、米国税務の知識を身に着けたいと思い、米国税理士の資格の受験を決めました。

Q2. 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：米国税務に関する知識は、米国公認会計士試験合格レベルです。

英語知識：TOEIC®L & R TESTで850点でした。

Q3. TACをお選びいただいた理由は？

公認会計士試験（2次試験・修了考査）及び基本情報処理技術者の講座を受講しており、信頼及び安心感があるためです。

Q4. TACの講座でよかったところ

教材が抜群に良かったです。パワーポイント形式の教材に必要最低限ながらその知識を応用すれば十二分に問題に対応できるように作成されていました。

特にPart3のテストではとても有効でした。

「パワーポイント形式の教材→問題演習→100問トライ」で合格できると記載されておりましたが、このガイドラインがあったおかげで無駄なく合格へ近づきました。

Q5. 合格までの学習期間は？

Part1(Individual)は2か月ほど、Part2(Business)は1か月ほど、Part3(representation)は1か月ほど、其々時間を要しました。

学習時間は、平日は約1時間、土日は約3時間で平均すると週10時間程度です。

Q6. 合格までの学習法

勉強方法は、Q4に記載した「パワーポイント形式の教材→問題演習→100問ランダムトライ」を実践しました。通勤時間や隙間時間にパワーポイント形式の教材の通読を行い、週末に問題集及びGleim教材の100問トライを行っていました。

Part1の時は、専門用語になれること及び計算が多かったため時間がかかりました。

しかし、Part1での知識を定着させることがPart2の合格までの学習期間短縮に繋がると思います。

Part3は、パワーポイント教材の通読を通じた内容の理解と暗記が決め手だと思えます。

Q7. 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続は、米国公認会計士試験の時とは異なりとてもシンプルなのでよかったです。また手数料も圧倒的に安かったです。

Q8. これから合格を目指す方へのアドバイス

最初はGleim教材を全て通読してテストに臨もうと思いましたが、量が多く、年内に試験合格するという目標を達成できないと思いあきらめました。

おそらく、Gleim教材全部の通読をあきらめて、「パワーポイント形式の教材→問題演習→100問トライ」を実践したことが無駄なく効率的に学習できた秘訣だと思います。

※この体験記はあくまで個人的な見解である点、予めご了承ください。